キルギス共和国日本語教師会研究紀要

キルギス日本語教育研究

第 6 号

【キルギスにおける日本語教育開始 30 周年記念大会
「キルギス共和国における日本語教育の歩み」講演録】
キルギス共和国における日本語教育の歩み
モルドガジエフ　リスベク・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
キルギスの日本語教育 30 周年に際して
伊藤　広宣・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
キルギスの日本語教育―30 年の歩みと人々―
ヴォロビヨワ　ガリーナ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
日本人からキルギスの先生方中心へ―キルギス日本人材開発センターで見た 3 年間ー
黒岩　幸子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

【特別寄稿】
学習者の自律を目指した音声学習・指導
中川　千恵子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

【研究ノート】
日本語母語話者とキルギス語母語話者同性の二者間会話におけるフィラーの特徴
ジョルブラコワ　マイラム・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40

キルギス共和国日本語教師会
Бишкек, 2022

УДК 811.521
ББК 81.2 Я
Н 34

Редколлегия
Асель ДЖУНУШАЛИЕВА – магистр (востоковедение и африканистика), старший преподаватель Бишкекского государственного университета
Галина ВОРОБЬЕВА – доктор наук Японии (японоведение)

Н 34 Научные исследования в области преподавания японского языка в Кыргызской Республике / Редколлегия Асель ДЖУНУШАЛИЕВА, Галина ВОРОБЬЕВА. -Б.: 2022 – 57 стр.

ISBN 978-9967-31-568-6

Ассоциация преподавателей японского языка Кыргызской Республики была создана в 1999 году. Основные цели Ассоциации – совершенствование и продвижение преподавания японского языка учащимся Кыргызстана и всего Центральноазиатского региона, распространение японского языка и японской культуры, углубление кыргызско-японских отношений.

Мы надеемся, что данный сборник научных трудов «Научные исследования в области преподавания японского языка в Кыргызской Республике» № 6, знакомя с результатами исследований о Японии и методах преподавания японского языка, будет играть значительную роль в обмене научной информацией не только в Кыргызстане, но и во всей Центральной Азии.

Март 2022 года
Ассоциация преподавателей японского языка Кыргызской Республики

Н 460202500-17 УДК 811.521
ISBN 978-9967-31-568-6
ББК 81.2 Я
©Ассоциация преподавателей японского языка Кыргызской Республики

キルギス共和国日本語教師会研究紀要

キルギス日本語教育研究

Научные исследования в области преподавания японского языка в Кыргызской Республике

第 6 号

выпуск № 6

ISBN 978-9967-31-568-6

キルギス共和国日本語教師会

Ассоциация преподавателей японского языка
Кыргызской Республики

Бишкек, 2022

《目　次》

◆キルギスにおける日本語教育開始 30 周年記念大会「キルギス共和国における日本語教育の歩み」講演録

キルギス共和国における日本語教育の歩み

モルドガジエフ　リスベク・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

キルギスの日本語教育３０周年に際して

伊藤　広宣・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

キルギスの日本語教育—30 年の歩みと人々—

ヴォロビヨワ　ガリーナ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

日本人からキルギスの先生方中心へ—キルギス日本人材開発センターで見た 3 年間—

黒岩　幸子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

◆特別寄稿

学習者の自律を目指した音声学習・指導

中川　千恵子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

◆研究ノート

日本語母語話者とキルギス語母語話者同性の二者間会話におけるフィラーの特徴

ジョルブラコワ　マイラム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40

◆学会・研究会報告等

キルギスにおける日本語教育開始 30 周年記念国際研究大会

アスランベック　クズ　グリザット ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47

モスクワ国立総合大学が開催したオンライン方式研究大会について

ヴォロビヨワ　ガリーナ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49

キルギスの日本研究

ジュヌシャリエワ　アセーリ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50

◆役員・委員会一覧その他 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51

Оглавление

◆ Содержание выступлений приглашенных докладчиков международной конференции, посвященной 30-летию преподавания японского языка в Кыргызской Республике

Об истории преподавания японского языка в Кыргызской Республике

Рысбек МОЛДОГАЗИЕВ · 4

К 30-летию преподавания японского языка в Кыргызской Республике

Хиронори ИТО · 8

30 лет преподавания японского языка в Кыргызской Республике: события и люди

Галина ВОРОБЬЕВА · 12

От преподавателей-японцев к местным преподавателям: из опыта преподавания японского языка в Кыргызско-Японском центре человеческого развития

Сатико КУРОИВА · 22

◆Отчеты приглашенных лекторов международной конференции

О методах изучения и преподавания фонетики, направленных на повышение самостоятельности учащихся

Тиэко НАКАГАВА · 27

◆Научные заметки

Функции и роль заполнителей в мужской речи японцев и кыргызов

Майрам ЖОЛБУЛАКОВА · 40

◆Информация о научных обществах, конференциях и т.п.

Международная онлайн-конференция, посвященная 30-летию преподавания японского языка в Кыргызской Республике

АСЛАНБЕК кызы Гульзат · 47

Международная онлайн-конференция в Московском государственном университете

Галина ВОРОБЬЕВА · 49

Серия обучающих семинаров по методике преподавания японского языка

Асель ДЖУНУШАЛИЕВА · 50

◆Сведения о должностных лицах Ассоциации преподавателей японского языка КР, редколлегии Вестника ассоциации и др. · · · · · · · · · · · · · · · · · · 51

キルギス日本語教育研究，2022，vol.6，pp.4-7
モルドガジエフ　リスベク，
キルギスにおける日本語教育開始30周年記念大会「キルギス共和国における日本語教育の歩み」講演録

キルギス共和国における日本語教育の歩み

モルドガジエフ　リスベク
（キルギス共和国日本語教師会名誉顧問，
キルギス・日本ビジネス協議会会長，
元駐日キルギス共和国特命全権大使）

キーワード：キルギスの日本語教育，日本語教育開始30周年，日本語学習者，
キルギス共和国日本語教師会，在日本キルギス共和国大使館

1. キルギスにおける日本語教育の先駆者

キルギスでは，キルギス共和国独立よりも、日本語はもう少し早く1980年代にОбщество «Знание»日本語で「知識」と呼ばれる共和国の団体において，また第70番中等学校の夜間コースで講義されていた。これらのコースは，尊敬するキルギス市民，朝鮮人のAlexander Petrovich Pak，およびユダヤ人のIsaak Mikhailovich Aksenrodによって教えられた。ソ連で当時発表された「グラスノスチ」と「ペレストロイカ」の政策は，多くの人々に自由な活動を可能にしたと考えられる。

図1　Aksenrod I.M.

また，キルギスにては，キリル文字で日本語を書くための転写システムの作者である伝説的なロシアの日本語学者，Yevgeny Dmitrievich Polivanov先生が，1930年代に私たちの街に住み，キルギス文化建設大学で働いていたことは非常に不思議な縁だと思う。Polivanov先生は，キルギスの壮大なマナス叙事詩を翻訳し，20の言語を話すことができた，まさに偉大な人物だった。

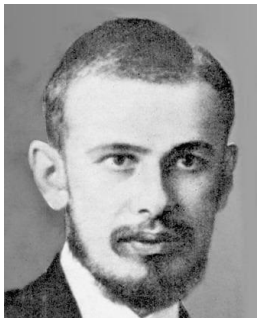


図2　Polivanov Y.D.

2. 日本語習得のきっかけ

日本に関心を持ったのは，私がまだ学校に通っていた時代のことであった。芥川龍之介，安部公房などの作家の作品を読み、黒澤明監督の映画を見た。当時，「冷戦」がまだ存在し，「鉄のカーテン」は私たちを日本から引き離していた。

3. 当時の日本語教育の様子：Aksenrod先生

1989年，ウクライナのソビエト軍で2年間の兵役を終え，キルギスに戻った後，Aksenrod先生のコースに申し込んで，合わせて3年間勉強した。

Aksenrod 先生のテクニックは非常に明確で，学習者にとってわかりやすい授業であった。1 つの授業は，文法，語彙，漢字，会話の 4 つのブロックで行われた。最初は，ロシア語で行われていた日本語の文法の説明が私にとっては分かりにくいものだった。しかし，ある授業で，キルギス語を含む多くの言語を話せる Aksenrod 先生は，日本語の文法とキルギス語の文法を比較するようにとアドバイスをくださった。この日，私はキルギス語と日本語が「兄弟言語」であることを発見したのである。

図 3 キルギス第一寄宿学校

当時，キルギスでは日本語の教材が不足していて，黒板からすべてを書き写した。40 年前ロシア極東地域で出版された本を見つけることが時々あった。

当時，キルギスには日本人のネイティブスピーカーは一人もいなかった。先生と仲間の生徒だけで「生の会話」の練習をした。おそらく，これらの制限は，初心者の日本語学習者の自然淘汰になり，私たちに常に知識を求める「ハングリーさ」を植え付けた。
「鉄のカーテン」がまだ存在していた頃は、私たちと日本を結びつけるモチベーションはなかった。私たちが日本に行くということは現実味はなく，ましてや日本人と接したり，仕事をしたりすることは考えられなかった。日本への愛のみで，私たちは，動いていた。

夜間コースで勉強を終えた後，私は Aksenrod 先生の招待で，ビシュケクのキルギス第一寄宿学校で，日本語を教えるのを手伝った。Aksenrod 先生の優れた教授法と質の高い教育は，1995 年にこの学校の 17 人の卒業生がキルギス国立総合大学東洋学部の「日本語」専攻に入学したことによって証明されている。

Aksenrod 先生の経歴は素晴らしいと言える。戦時中，彼は極東の軍学校で「日本語の通訳」を専攻として学び，日本人捕虜と接した。彼はいつも学生に，どんな時でも人道を大切にする重要性を語った。

4. キルギスにおける最初の日本語学習者

キルギスでの最初の日本語学習者の中では，特筆すべきは Omurbek Janakeev 氏であろう。彼は，モスクワで日本語コースを受講した後，1989 年キルギスに帰国し，1990 年代初頭にキルギス第 5 番中等学校に児童向けの日本語グループを組織した。1992 年 本人は日本語の資格向上の研修のために日本に行った。1999 年に，4 人の日本人地質学者とともに，彼はウズベキスタン・イスラム運動（IMU）の過激派に２カ月半捕らえられたことがあるが，本人は，日本人の安全で健全な状態で解放されるようにあらゆることを行った。

5. キルギスが独立した後の日本語教育

1991 年にキルギスが独立した後，日本人の最初の日本語教師である伊藤広宣先生がキルギス国立総合大学に来られた。日本思いの人たちにとっては，大きな出来事になった。本人

のおかげで，高等教育機関での「日本研究」の最初のグループがキルギスにできた。ちなみにこのグループは，翌年現在のビシケク国立大学に移された。

それからの日本研究の発展とキルギスと日本の協力の強化は，伊藤先生の地道な貢献があったからであると思う。彼がキルギスに来て以来，いつも日本に関心のある人たちが，彼のところに集まった。彼の寮の部屋はいつも人でいっぱいで，多くの人は，ただ単に彼のところに来て，黙って座って彼を見つめた。本物の日本人をみるためだ。彼も来る者拒まず，いつもやさしくお客に接した。

図4　日本政府代表団を歓迎する応援団左から
右へ2番目伊藤広宣氏　右から左へ1番 Janakeev O.氏

1992年，渡辺美智雄外務大臣が率いる最初の日本政府代表団がキルギスを訪問した。代表団には，日本の大企業や日本のメディアの方々が含まれていた。その時，私たちは大統領府の入口で挨拶することができた。当時，私たちはより多くの日本人がキルギスに来て，キルギス人が日本人に好感を持つことを知ってほしかった。また，より多くのキルギス人が日本語を勉強し，日本に留学し，キルギスに戻って，国の発展に貢献することを夢見ていた。今では，この夢が叶ったことを嬉しく思う。

1993年に私は，キルギス共和国外務省に就職後，キルギス・日本関係を担当することになった。昨年25周年を迎えたキルギス日本センターの開所準備に私も参加できましたことを誇りに思う。長年にわたり，日本センターはキルギスにおける日本の活発な文化的・教育的プレゼンスの大きなシンボルになっていることを指摘したいと思う。

6. 日本での滞在体験

1995年4月，日本センターの開所式を待たずに，私が日本に留学しなければならなかったことを思い出す。最初に学んだ日本の大学は大阪外国語大学だった。そこでは，日本語に苦労をした。周りの方々の日本語が理解できなかった。「今まで私がキルギスで学んだ日本語は何だったんだろう」とあせった。しかし，あとからわかったのですが，彼らは，関西弁を話していたのだ。

図5　信任状奉呈式

日本に滞在している間，いろいろと日本語に関連した非常に緊張した場面があった。たとえば，国会議員の前でも話，日本の高官との交渉など。しかし，最も緊張しましたのは，明仁天皇陛下との最初の謁見だった。通訳者をつけないことになっていたので，天皇陛下に対して失礼のない最も礼儀正しく話せるように準備をした。緊張の中，幸いなことに，天皇陛下が高い文化性と人間性を兼ね備えているおかげで，謁見は成功した。

7. 終わりに

日本で過ごした14年間の中で，日本語と日本哲学の深さを実感した。そして，それはより魅力的だ。日本語学習者への私のアドバイスは，みなさんが，もう日本を知っているということを言えるのは，まだ早いということだ。これからも勉強頑張ってください。学ぶことはもっとたくさんある。みなさん自身のために，そして社会の発展のために。

最後に，Galina Vorobyova先生をはじめ，キルギス日本語教師会のすべての先生方に対し，キルギスの若い日本語学生の教育に尽力し，キルギスと日本の友好と協力の発展に貴重な貢献をしていただいていますことに心より感謝する。

編集委員会による執筆者紹介

モルドガジエフ氏は，2011年から2015年まで駐日キルギス共和国特命全権大使を務めた。現在は，キルギス・日本ビジネス協議会会長，キルギス共和国日本語教師会名誉顧問として活動中である。

キルギス日本語教育研究，2022，vol.6，pp.8-11
伊藤　広宣，
キルギスにおける日本語教育開始30周年国際研究大会「キルギスの日本語教育３０周年に際して」講演録

キルギスの日本語教育３０周年に際して

伊藤　広宣
（筑波大学）

キーワード：キルギスの日本語教育，日本語教育30周年，高等教育機関，日本語教員

みなさん，おはようございます。

「キルギスにおける日本語教育30周年記念国際研究大会」の開催誠におめでとうございます。

開催への御尽力をしていただきました主催者，後援機関様に深く感謝申し上げます。

私は，1991年キルギス高等教育機関にて日本語教育が，始まった時の最初の日本語教員であり，その後27年間キルギスの日本語教育に携わった者です。このたび30年という時の過ぎゆく速さに驚きながら，感慨にふけっております。

この30年を迎え，日本語教育に携わった日本語の先生方，また日本語教育発展を支援してくださった非常に多くの方々一人一人に厚く御礼を申し上げます。

さて，私はキルギスにてキルギス国立総合大学7年，ビシケク国立大学は，2期にわたり11年，キルギス国立大学では，12年，キルギス・ロシア教育アカデミーなどでも日本語の教鞭を執っておりました。キルギスの27年間の間に2大学をかけもちで何年も教えていたこともありました。私の教え子の中には，今ではキルギス，日本，外国にて日本語関係分野で活躍している者も多く出てきており，とてもうれしく思っております。

本日の報告ですが，時間の都合上，おおまかでありますが，私がキルギスの日本語教員になる経緯から2000年ごろまでのキルギスの日本語教育に関することをお話します。

私は，学生時代にモスクワ大学1年，その後ウラジオストク極東大学に半年留学しました。

私は，極東大学で学び始めたころ，キルギス出身の同い年の学生と知り合いました。その彼にモスクワ時代のキルギスの友人たちの写真を見せますと，なんと彼は，モスクワの友だちと同じ学校の同級生であったり，近所の知り合いだったことがわかり，彼とは，すっかり仲良くなりました。私は，彼から極東大学の冬休みにキルギスに遊びに来るように誘われ，キルギスに行くことにしました。1991年1月末からの5日間のことです。

私がキルギスにつくと先にウラジオストックからキルギスに戻っていた友人から「キルギスの大学が君にとても興味を持っているから，大学訪関係者に会わないか」と誘われました。そこで，今のキルギス国立総合大学に出向き，大学の関係者と話をしました。大学の方と打ち解けて話をしている途中に，思いがけず，彼らは，私に是非キルギスに日本語を教えに来てほしいと依頼しました。突然のことで驚きながら，私のキルギスへの招聘条件を話し合いました。条件を整えてもらい，大学関係者のあまりの熱意さに心を打たれ，「大丈夫かな」と思いながら，翌日当時の学長と労働契約書にサインを交わしました。両親にも誰とも相談せずに決めてしまい，あとから大変でしたが，それはそれとして，キルギスの話が決まったことで，極東大学の留学を切り上げ，すぐに日本に戻り，日本の大学を卒業しました。その後，

大学の後輩2人がキルギスへの留学を希望したので，3人で一緒に行くことになりました。

8月19日私たちのキルギスへの出発の日，当時のゴルバチョフソ連邦大統領が，幽閉されるという事件が起きました。私たちは，そのことを新潟空港に向かうタクシーの中で知りました。しかし私たち3人は，今行かないとしばらくキルギスに行けなくなるのではないかと思い，躊躇せず，日本を出発しました。幸い中継地ハバロフスクでは，何も事件の影響はなく，翌日には，無事にキルギスに着きました。長引くと思われたその事件もあっという間に収拾し，その10日もたたないうちにキルギスは，ソ連邦からの独立宣言をしました。

事件後，キルギスの大学からは，今国は新しい動きをしているので，落ち着いてから私に連絡するという話で待っていたところ，9 月に入ってから，歴史学部に日本語の専攻コースができ，そこで，日本語をお願いしたいと言われました。私は，日本にいる間からてっきり私の担当する日本語の授業は，第二外国語か自由聴講か何かで，週2，3回，学生の希望者が受講する程度としか思っていませんでした。

思えば，キルギスは，旧ソ連邦から独立宣言したばかりの状態でありましたので，一主権国家として様々な分野の専門家の養成も必要に迫られており，日本語の専門家養成もその一つであったかと思います。

ちなみにウラジオストックで知り合ったキルギスの友人は，のちにキルギスの外務大臣，国務大臣を務めましたカディルベク・サルバエフ氏です。私は，彼のおかげで，キルギスと不思議な縁を結べたことに感謝しております。

1991年9月23日現キルギス国立総合大学（昔は，キルギス民族大学と呼んでいましたが）歴史学部東洋語コースにて，私は，日本語の授業を始めました。

私の初めてのグループの学生は，10人でした。日本語の授業は週5日。教材は，私が日本から持ってきた日本語の参考書やロシア語教材などを参考にして毎日テーマを考え，講義ノートを作成したものでした。それが，のちの教材執筆等に役立ったと思います。現在日本語関係の教材，チュルク語関係の書籍など単著，共著合わせて36冊になります。

私の1年目を思い出しますと，当時は，市販されている教材もなく，また，黒板に書くチョークも教室も時々見つけられなく，コピーサービスをするお店もありませんでした。そのような中を無我夢中で1年日本語を教えました。学生たちは，私の話すこと，黒板に書くことすべてを一生懸命勉強しました。年明けからは，私と日本から一緒に来た留学生の2人に月に1，2度授業に入ってもらい，学生の会話力向上を手伝ってもらいました。

この最初の1年目に元駐日キルギス大使のリスベク・モルドガジエフ氏と日本語通訳のオムルベク・ジャナケエフ氏とも親しい友人になり，現在も仲良くしております。

また，私がキルギスに来る前から学校等で日本語を教えていたアレクサンドル・パク先生，イサク・アクセンロド先生ともリスペク・モルドガジエフ氏を通じて知り合いになりました。

最初の1年間が終わり，1992年夏に，当時の教育大臣の政策により新しく大学が改編され，現在のビシケク国立大学に東洋学部が設立されました。キルギス国立総合大学で学んでいた東洋学科の学生は，そっくりそのままビシケク国立大学に移されることになり，私も一緒にキルギス国立総合大学を去るはずでした。

ところが，東洋学科を失ったキルギス国立総合大学は，キルギス文学部に東洋学科が新たに設けられたことにより，成り行きで，私は2大学で働くようになりました。その当時のキ

ルギス文学部の学部長であったのが，現ビシケク国立大学のアブディルダ・ムサエフ学長でした。

1992年ビシケク国立大学の現在の東洋学国際関係学部の学部長は，半年ほどアンバル・マケエフ先生が学部長を務めましたが，その半年もたたないうちにタラスベク・マシュラーポフ学部長に変わりました。マシュラーポフ先生とは，前年の歴史学部からの知り合いで，ビシケク国立大学では，長年学部長として日本語の発展に大変寄与されています。そして同学部の東洋語学科長には，後に総合大学や国立大学にて一緒に働くことになるアバズベク・アタハノフ先生がつきました。

私のキルギス2年目は，こうして2大学で働くようになりました。私が担当しました授業は，2つの大学で週11コマでした。

図1 日本語の授業

図2 記念写真

当時ビシケク国立大学は,現在キルギス国立大学のミクロライオンにある校舎でしたので,2つの大学の掛け持ちは，距離的な移動も大変でした。

その年は,日本から来られた佐々木伸一郎先生と2人で2大学を手分けをして教えました。

1993年は，浦部大輔先生がキルギスに来られ，佐々木先生とともに3人が両大学で，教鞭をとりました。それに加えて，オムルベク・ジャナケエエフ先生がビシケク国立大学の教員として入ってきました。1994年には，ビシケク国立大学に三井勝男先生，清水陽子先生，マイラム・ユスポワ先生が加わりました。

1995年には，高等教育機関の動向ではありませんが，日本センターが設立され，日本語コースが作られました。萩原幸子先生が教鞭を執られました。浦部大輔先生も日本センターで教鞭を執りました。ガリーナ・ヴォロビヨワ先生らが，一期生として入学しております。

1996年夏には，キルギス国立総合大学から4年日本語を学んだ学生たち，ビシケク国立大学からは，5年日本語を学んだ学生たちが，卒業しました。

私は，両大学から同時に卒業生が出たのちに，ビシケク国立大学を辞め，1996年秋からキルギス国立総合大学1校だけで教鞭を執るようなりました。

その2年後1998年先ほど名前を出しましたアタハノフ先生が,キルギス国立大学の付属に東洋言語文化カレッジ（インスチツート）（「イビャック」と呼ばれておりましたが),その設立するにあたり，私を招いてくださり，彼の下で働くことを決め，一緒に働きました。開学の年には，日本語学習者115人11クラスを編成し，話題になりました。

また 1990 年代は，アメリカ大学などで，日本語教育が始まったり，日本語教師会が正式に設立されたり，中央アジア弁論大会が始まったりしました。

2000 年には，オシ国立大学，ロシアスラブ大学などで，日本語教育が始まりました。

JICA の青年海外協力隊の派遣も始まりました。

2000 年代を少し述べますと，そのころからキルギス国立大学（イビャック），そしてビシケク国立大学，キルギス国立総合大学，日本センターが，キルギスの主要な日本語教育の中心になりました。

2000 年代は，日本語教師会を中心に，様々な行事を催す等，日本語への関心，日本への関心が更にはぐくまれてきました。

そのころから氏原名美先生，ガリーナ・ヴォロビヨワ先生，ヤネズ・ミヘルチッチ先生，ナリーザ・ドゥイショノワ先生，アイベク・サマーロフ先生，マイラム・ジョルブラコワ先生，アスランベク・キズ・グリザット先生，アイグリ・エセナリエワ先生，ディナーラ・オモロワ先生，ジュルディス・ヌスバリエワ先生，アイナ・ドロットバエワ先生など長年キルギスで日本語教育に従事されてきました（お名前をお呼びできなかった先生には，申し訳ありません）。また，日本交流基金からの日本語専門家たち，JICA 海外青年協力隊の先生方，個人契約で来られた日本人の先生方など，多くの先生方が日本語教育に情熱をもって取り組まれました。

このあたりで，私の報告を終わりたいと思います。

キルギスの日本語教育に関しまして「人生をかけた日本語教育－実践と研究をつなぐ二人の対話」（ガリーナ・ヴォロビヨワ先生との共著 2017 年発行）という書籍がインターネットにて日本語版，ロシア語版ででていますので，ご興味がありましたら，是非お読みください。

最後に皆様方の御健康・御多幸を，またキルギス日本語教育の更なる発展をお祈りいたします。

ご清聴ありがとうございます。

編集委員会による執筆者紹介

伊藤広宣氏は，キルギス共和国の高等教育機関での最初の日本語母語話者教師であり，27 年にわたり，キルギス共和国の日本語教育に携わった。

キルギス日本語教育研究，2022，vol.6，pp.12-21
ヴォロビヨワ　ガリーナ，
キルギスにおける日本語教育開始 30 周年国際研究大会「キルギスの日本語教育―30 年の歩みと人々―」講演録

キルギスの日本語教育―30 年の歩みと人々―

ヴォロビヨワ　ガリーナ（元ビシケク国立大学）

キーワード：キルギスの日本語教育，30 周年，教師会，活動，研究

1. キルギスの日本語教育の一歩目

2021 年 9 月にキルギス共和国における日本語教育開始 30 周年を迎えます。そこで，キルギスにおける日本語教育の歴史の振り返りをします。キルギスの日本語教育は多くの人々によって作られたもので，その一歩一歩の歩み，貢献した先生方の活動について話したいと思います。まずキルギスの日本語教育の一歩目について述べます。あまり知られていない事実ですが，1991 年前にもキルギスで日本語の授業がされました。キルギスがまだソ連に入っていた 1989 年にビシケク市で私立日本語コースが開かれました。最初のキルギスの日本語教師はイサーク・アクセンロード先生とアレクサンドル・パク先生でした。1991 年にキルギスの独立後間もなく，キルギス国立民族大学東洋学部に日本語学科が開かれて，キルギスの高等教育機関における日本語教育がスタートしました。最初の講師は伊藤広宣先生でした。同時に第 1 寄宿学校でも日本語の授業が始まって，中等教育機関での日本語教育もスタートしました。教師はイサーク・アクセンロード先生でした（写真は図 1 です）。

図 1. アクセンロード先生

1992 年から 2000 年にかけて首都ビシケクにある大学でも日本語教育が始まりました。それはビシケク人文大学，キルギス国立教育大学付属東洋言語文化大学，キルギス・ロシアスラブ大学，キルギス・アメリカ大学，ビジネス観光大学，チュイ地方大学，建築大学，外交アカデミーでした。

その他には，両国政府の合意によって 1995 年にキルギス日本センターが開かれて，主に社会人を対象に日本語教育を行っています。2003 年から JICA の管轄下のキルギス共和国日本人材開発センターになりました。1999 年から地方にあるオッシュ国立大学，ジャララバード国立大学，2004 年からカラコル国立大学でも日本語教育が始まりました。それは日本語ブーム時代でしたが，今は日本語を教えている大学が少なくなりました。国際交流基金の 2020 年の情報によると，2018 年現在キルギスにおいて日本語を教えていた教育機関は 19 校でした。日本語教師の人数は 47 人でした。日本語学習者の人数は以下のとおりでした。

- 全体　約　1600 人
- 初等・中等教育機関　約　900 人，全体の 56%
- 高等教育機関　約　400 人，全体の 25%
- 学校教育以外　約　300 人　全体の 19%

2. 日本語教育の段階と問題点

ビシケク国立大学の氏原名美教授はキルギスの日本語教育の３つの段階について以下のように述べました（氏原 2015：16）。

第 1 段階：1991～2000 年　〈日本語ブーム〉
第 2 段階：2000～2010 年　〈教師会活動発展と JOCV の時代〉
第 3 段階 ： 2010 年以降　〈人材流出〉

現在も日本語教師の流出が続いています。理由がいくつかあり，その中に以下のこともあります。

・キルギスに日本語教師を育てる国内制度がないです
・教師の給料は安いです
・教師以外の仕事の可能性が増えてきています。

以前日本語教育学会会長だった名古屋外国語大学の尾﨑明人名誉教授は日本語教育制度について次のことを主張しました。日本語教育制度には日本語を教えることだけではなく，日本語の知識を生かして仕事ができる環境を作ることも入っている，と。キルギスではそのような環境はまだ不十分な状況です。つまり大学の卒業生が日本語の知識を生かせる仕事が少ないのです。

3. キルギス日本語教師会の創立，活動

1999 年にキルギス日本語教師会が創立されました。教師会は当時キルギスで日本語を教えていた日本人教師，キルギス日本センターの萩原幸子先生（図 2）やビシケク人文大学の三井勝雄先生（図 3），他の先生方の努力のおかげでできました。第一期の会長はビシケク人文大学とキルギス日本センターの講師チョンムルーノフ・チムール先生でした。

図 2.　萩原幸子先生

図 3.　三井勝雄先生

教師会の主な活動は次の通りです。

・キルギスと中央アジア日本語弁論大会と日本語教育セミナーの開催
・国際日本語教育研究大会の開催
・作文コンクールの開催
・朗読コンテストの開催
・教師会会報の発行

・キルギス日本語教師会紀要『キルギス日本語教育研究』の発行
・教師養成コースや教授法の勉強会の実施
・公開授業の参観
・2007年から日本語能力試験の実施
・教師会のオフィシャルサイトの作成（http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com）
・日本文化活動

図4には2001年当時のキルギス日本語教師会会員達を見ることができます。

図4. 2001年当時のキルギス日本語教師会会員達

教師会は国際交流基金「さくらネットワーク」に加入しています。国際交流基金，在キルギス日本国大使館，JICA事務所，キルギス日本人材開発センター，キルギス日本人会，日本とキルギスを結ぶ中小企業などがキルギス日本語教師会の活動の支援をしてくださっています。活発な活動のためにキルギス日本語教師会は2015年に外務大臣表彰を受賞しました。

4. 日本語弁論大会，作文コンクール，朗読コンテスト

図5. 2016年の国内日本語弁論大会の参加者

国内日本語弁論大会は最初の教師会の活動となりました。毎年開催されています。図 5 には 2016 年の国内日本語弁論大会の参加者の写真を提示します。1997 年から中央アジア日本語弁論大会が毎年ウズベキスタン，カザフスタンとキルギスの教師会によって順番に開催されています。キルギスの学生はモスクワで開催される国際弁論大会にも出場しています。教師会は長い間年に 2 回それぞれの国際弁論大会の国内選抜大会を行っていましたが，近年は国内弁論大会を 1 年に 1 回開催しています。

図 6. 岩田昭夫氏

図 7. 作文コンクールの賞品の紹介

図 8. 優秀作品集集

日本語弁論大会は話す能力の育成にとってとても役立ちますが，書く能力も重要です。私は会長として作文コンクールを提案して，幸いにも日本で NGO ヒューマン・アンド・ジオサイエンスの岩田昭夫氏（図 6）という協力者を見つけました。その後 2002 年から 11 年間作文コンクールが実施されました。岩田氏から毎年賞品と参加賞を受け取りました。残念なことに岩田氏は 2016 年に亡くなりました。図 7 には賞品になった貴重な辞典，図 8 には岩田氏が発行した 2002～2006 年の作文コンクールの優秀作品集の表紙の写真を提示します。

図 9. 第 1 回朗読コンテストのチラシ

図 10.　朗読コンテストの様子

朗読コンテストはキルギス日本人材開発センターで教えていた国際交流基金日本語教育専門家助手の渡邊知釈先生の提案によって数年間実施されました。図 9 には第 1 回コンテストのチラシ，図 10 にはコンテストの様子の写真が見られます。

5. 日本語教師養成

キルギスでは日本語教師養成制度が存在していなくて，教師は国際交流基金日本語国際センターの教師研修で教授法を習得します。それ以外に教師会は教師養成コースや教授法の勉強会の実施を行っています。キルギス日本センターの萩原幸子先生，その後国際交流基金日本語教育専門家の先生方も教師養成に貢献しました。大学の日本語の第 1 期生は 1996 年に大学を卒業して，その中から数人が新米の日本語教師になりました。萩原先生は彼らのサポートをするために、日本センターで教授法を教えました。その後日本センターの中林理絵専門家は教師のために上級コースを開きました。後任の黒滝力専門家も上級コースを実施して，さらに様々な教育機関の公開授業を定期的に参観して，ビデオを撮って，教師に改善ようのアドバイスをしました。渡邊知釈専門家助手は翻訳・通訳コースを実施しました。その後働いていた専門家の先生方も教師養成に貢献しました。入山美保先生も日本センターで教師養成コースを実施しました。

2000 年に教師会では勉強会をし始め，会員達は順番に『みんなの日本語 I』の模擬授業をして，その後改善について議論をしました。現在も教師会は定期的に勉強会をオンライン式で行っています。

6. 日本語教育セミナー・国際研究大会の開催

教師会は毎年 1-2 回国内日本語教育セミナーと 3 年に 1 回中央アジア日本語教育セミナーを開催しています。2017 年から国際研究大会も開催しています。講演者は日本，アメリカ，中国の有名な先生，発表者は国内外からでした。図 11 には第 2 回国際研究大会の参加者が写っています。

図 11. 第 2 回国際研究大会の参加者

7. キルギスの日本学・日本語教育研究

西條＆Dzhunushalieva（2018）はキルギス共和国独立以後のキルギス国内の日本学研究成果（学位論文，雑誌論文，著書）を調査，記録して，目録（図 12）を発行しました。当目録には学位論文 214 本，雑誌論文 161 本，図書 52 冊の書誌データが入っています。そのうち博士論文はわずか 7 本です。全ての博士号は日本の大学で取得されています。

図 12.　キルギス国内の日本学研究成果の目録

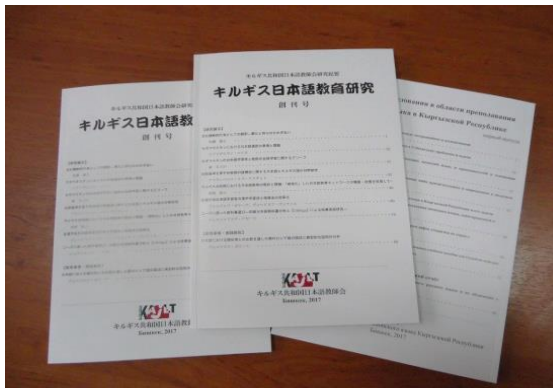


図 13.　キルギス日本語教師会紀要創刊号

JICA ボランティアとしてビシケク人文大学で日本語を教えていた西條結人先生の提案で 2017 年からキルギス共和国日本語教師会研究紀要『キルギス日本語教育研究』（図 13）が発行されています。キルギスだけでなく，日本，アメリカ，中国，ウズベキスタン，カザフスタンからの研究論文と実践報告も掲載されています。

8. 日本語教師の文化活動

2004 年にキルギス日本人材開発センターが「もみじ祭り」を開催しました。イニシエータは国際交流基金日本語教育専門家黒滝力先生でした。協力隊員，日本語教師，学生など多くのキルギス人，日本人が協力して，この祭りを成功させました。その後もみじ祭り，五月祭り，文化祭などの催しが続いています（図 14, 15）。

図 14.　五月祭りの様子

図 15.　五月祭りの開会式

9. キルギス日本語教師会会報

2000 年に私が教師会会長として提案したキルギス日本語教師会会報第 1 号が発行されました。最初の目的はキルギス国内で情報を広めて，現地教師がより活発に教師会の活動に参加することでした。図 16 には教師会会報のバックナンバーが提示されています。

図16. 教師会会報のバックナンバー

その後もう20年以上続いていて，2021年8月には，会報第61号が発行されました。2014～2019年には私が会報編集委員長を務めていて，キルギスだけでなく，日本，ロシア，アメリカ，中国，ウズベキスタンなどの国の日本語教育関係者による記事を掲載していました。アジア，ヨーロッパ，アメリカ，オーストラリア，アフリカの国々の日本語教師に会報を送るので，そこでも読まれています。会報をインターネットで読むことができます。以前JICAボランティアとしてビシケク人文大学で働いていた高橋知也先生が会報をインターネットにアップロードしてくださっています（https://www.evernote.com/pub/tm0y/kyrgyz_vestnik）。近年のバックナンバーは教師会のオフィシャルサイトでも見られます（https://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdofree.com/会報-刊行物/会員の刊行物/）。

第1号からの会報は国際交流基金日本語国際センター図書館にも所蔵されており，全世界からの研修生などがそこで読むことができます。会報の意義はキルギスの日本語教育事情，日本語教師会の活動を世界に知らせること，歴史に記録することです。

9. 私の生活におけるキルギスの日本語教育

私の生活に日本語教育はとても大きい影響を与えました。46歳になって1995年にキルギス日本センターで第一期生として日本語を勉強し始めて，その後日本語との出会いのおかげで私の生活は一変しました。図17では当時のキルギス日本センターの教室にいる第1期生を見ることができます。

1998年から同センターの非常勤講師，1999年から専任講師になって，その後日本語教育，日本語教育研究が私のライフワークになりました。2003年から日本センター日本語コース主任教師になりました。2000～2004年に教師会会長を務めていました。

図17. キルギス日本センターの第一期生

2005～2007年に教科書『漢字物語Ⅰ，Ⅱ』を発行しました。図18には『漢字物語Ⅰ，Ⅱ』の写真，図19には『漢字物語』を持っている私の教え子を見ることができます。

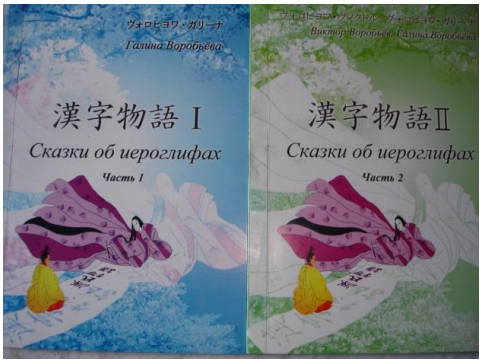


図18.『漢字物語Ⅰ，Ⅱ』

図19.『漢字物語』を持っている私の教え子

2014年に政策研究大学院大学で論文博士として博士号を取得しました（図20）。それは長年の研究活動の成果でした。博士論文の作成に当たってアドバイスとご協力をしてくださった名古屋大学の尾﨑明人名誉教授，国立国語研究所の横山詔一教授，当時の政策研究大学院大学の近藤彩先生と八木敦子先生，当時の日本語国際センターの阿部洋子先生，八田直美先生と久保田美子先生，津田塾大学の関麻由美先生に心から感謝いたします。今は，もう日本語教師の仕事をしていませんが，漢字教育研究を続けています。様々な国のオンライン研究会で発表したり，研究論文を執筆したり，教師会の活動をしたりしていて，日本語のおかげで充実した生活を送っています。令和2年度外務大臣表彰を受賞して誇りに思います。

図20. 2014年　政策研究大学院大学で

2017にキルギスの大学の最初の先生だった伊藤先生と私との2人で作成したキルギスの日本語教育についての本が発行されました（図21，22）。『人生をかけた日本語教育－実践と研究をつなぐ二人の対話－』でキルギスの日本語教育事情，キルギス日本語教師会の活動，2人の日本語教師，日本語研究者としての歩みなどを紹介しています。

私の教え子についても話したいと思います。先生にとって生徒が得た知識を生かして，様々な分野で成功を収めることは極めて重要です。私が日本語を教えた人の中に日本で勉強してから日本の大学の教授になった教え子，日本で知識を得て，キルギスのイシククリ湖で日本人も高く評価しているホテルを建てて経営している人，現在日本国大使館や日本人材開発センターで働いている人などがいます。教え子の中に日本語に無関係の仕事をしている人が多いですが，日本語，日本の文化，歴史，習慣に触れて，みんな日本が大好きになりました。日本語教師はキルギスと日本を近くする役割の重要性をよく感じています。

図 21．伊藤広宣先生と

図 22．『人生をかけた日本語教育』

萩原幸子先生をはじめ私に日本語を教えてくださった先生方にお礼を申し上げます。そしてキルギスの日本語教育関係者に 30 周年のお祝いをするとともに今後の活発な活動を祈っています。

参考文献

1. ヴォロビヨワ・ガリーナ（2013）「キルギスの日本語教育事情」『世界の日本研究 2013』京都，国際日本文化研究センター　59-67
2. ヴォロビヨワ・ガリーナ（2014）『構造分解とコード化を利用した計量的分析に基づく漢字学習の体系化と効率化』東京，ノースアイランド
3. ヴォロビヨワ・ガリーナ（2016）「日本語教師になって新しい世界が開けた」『ことばと文字』５号　くろしお出版　62-70
4. Воробьева Галина（2016）Об истории исследований японской иероглифики в Кыргызской Республике. Международная научно-практическая конференция «Кыргызское японоведение сегодня. К 25-летию деятельности японоведов в Кыргызской Республике». КГУ им. И. Арабаева 29-32
5. ヴォロビヨワ　ガリーナ（2017）「キルギス共和国における漢字教育研究の歴史について」『日本キルギス文化研究会会誌』創刊号 71-80
6. ガリーナ・ヴォロビヨワ，伊藤広宣（2017）『人生をかけた日本語教育―実践と研究をつなぐ二人の対話―』キルギス共和国，ビシケク: Fast print
7. ヴォロビヨワ・ガリーナ（2021A）「キルギス日本語教師会活動の記録集としての会報―創刊から 20 周年を迎えて―」『日本キルギス文化研究会会誌』第 5 号 45-57
8. ヴォロビヨワ・ガリーナ（2021B）「キルギス日本語教師会会報の創刊から 20 周年を迎えて―バックナンバーの概観―」『キルギス日本語教育研究紀要』第 5 号 キルギス共和国日本語教師会 72-93
9. 氏原名美（2015）「キルギス共和国日本語教育事情 頭脳流失―日本語教師のジレンマ」『日本語教育から見た国際関係報告書 2014』15-35，国士舘大学

10. 西條結人（2016）「キルギス共和国の高等教育機関における日本語教育実践に関する研究 :「動画制作」を取り入れた授業開発の試み」『語文と教育』30： 138-120
11. Сайдзё Ю., Джунушалиева А. （2018）Библиография по японоведению в Кыргызстане. Toiart Design Studio.
12. 西條結人（2021）「キルギス　多民族・多言語社会における教授言語別教育の現状と課題」『アジア教育情報シリーズ 3 巻　南・中央・西アジア編』91-105，一藝社
13. キルギス日本語教師会会報 <https://www.evernote.com/pub/tm0y/kyrgyz_vestnik>（2022 年 3 月 28 日閲覧）
14. 国際交流基金『2018 年海外日本語教育機関調査結 <https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2020/kyrgyz.html>（2022 年 3 月 28 日閲覧）
15. キルギス共和国日本語教師会オフィシャルサイト（http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com）（2022 年 3 月 28 日閲覧）

キルギス日本語教育研究，2022，vol.6，pp.22-26
黒岩　幸子，
キルギスにおける日本語教育開始 30 周年国際研究大会「日本人からキルギスの先生方中心へ―キルギス日本人材開発センターで見た 3 年間－」講演録

日本人からキルギスの先生方中心へ
―キルギス日本人材開発センターで見た 3 年間－

黒岩　幸子（早稲田大学日本語教育研究センター）

要約

本稿は，「キルギスにおける日本語教育開始 30 周年記念日本語教育国際研究大会」にて発表した内容をまとめ，加筆・修正した。30 年間のキルギス日本語教育の中で，報告者が業務にあたった時期はどのような位置にあるのか，その中でできたこと，できなかったことを，当時の関係者への感謝を述べるとともに振り返った。

1. 報告者とキルギスの関わり

報告者は，独立行政法人国際交流基金（以下，JF とする）日本語上級専門家としてキルギス共和国日日本人からキルギスの先生方中心へ―キルギス日本人材開発センターで見た 3 年間－本人材開発センター（Kyrgyz Republic-Japan Center for Human Development。以下，KRJC とする）へ 2010 年 1 月 24 日～2013 年 3 月 31 日派遣された。業務内容は，KRJC の日本語コース運営・授業実施ほか，キルギス共和国の日本語教育支援であった。

KRJC は独立行政法人国際協力機構（JICA）の日本センタープロジェクトとして実施されており，ビジネスコース，日本語コース，相互理解コースの 3 つのコースがそれぞれの面から人材育成，日本とキルギス相互理解に努めていた。プロジェクトフェーズ 2 の終了（2013 年 3 月 31 日）に向け，自立化，現地化が強く求められていた。

KRJC 日本語コースがキルギス人教師で運営，実施できるよう，報告者は，KRJC 日本語コース講師の育成に大きな力を注いだ。

2. キルギス日本語教育の中での報告者派遣時期

1991 年ソビエト連邦からの独立後すぐの時期に，キルギスにおける日本語教育は開始された。30 年続く日本語教育の中で報告者の派遣はどのような時期にあたるのかを見ておきたい。30 年は大まかに 10 年ごと 3 つに分かれるであろう。

1) 黎明期

報告者が業務にあたっていた当時の名称で記す。

ソビエト連邦からの独立後，キルギス民族大学，ビシケク人文大学，アラバーエフ名称キルギス国立大学で第一専攻言語としての日本語教育が始まった。中等教育でも第一寄宿学校で日本語教育が開始され多くの生徒が日本語を学び始めた。1995 年には支援委員会によるキルギス日本センターが設立された。現在まで続く主な日本語教育機関が生まれたほか，1999 年には V. ガリーナ氏を会長としたキルギス日本語教師会（以下，教師会とする）が発足し，

まさに黎明期である。社会環境が厳しい中で，教師たちは教育に取り組み，個人契約で教える日本人教師の活躍も目立った時期である。キルギスの教師と日本人教師は共に協力していたであろうが，どちらかというと日本人教師がキルギスの教師を引っ張っていく役割を担った時期であろう。

2) 拡大期

キルギス日本センターが 2003 年に JICA に移管され KRJC となり，また 2007 年には日本語能力試験（以下，JLPT とする）も開始された。学習者の数も増え，拡大期と言える。JF からの専門家及び指導助手, JICA からの青年海外協力隊員及びシニア海外ボランティアといった日本からの公的派遣者の数が増えた。国士舘大学からの教育実習生，交換留学生も日本語教育に寄与した。キルギスの教師と協力し，学習者へは日本語関連行事を数多く実施し，また教師研修も行われた。黎明期で育ったキルギスの教師と日本人教師がともに力を合わせ，日本語教育を拡大していった時期であろう。

3) 成熟期

2013 年 3 月末をもって KRJC はフェーズ 2 が終了し，日本語コースはキルギス人講師が運営，授業担当を行うようになった（半年後に JF 講座へ移行）。JICA からの派遣者も減り，他機関でもキルギスの教師が前面に立つようになっている。社会が変化し，日本へ実習に行く者の出現，初中等教育段階での学習者の増加等，キルギスでも日本語教育が多様化し，教師もこれまでの第一専攻言語として日本語を学ぶ大学生への教え方から多様な学習者への対応が必要になっている。

昨今，教師数が減っていると聞いているが，教師会は日本語関連行事の実施のほか，国際シンポジウムを毎年行う等，研究・実践の発展が見られる。また，待遇改善の訴えなど，社会の中での教師へも視野を向けている。いよいよ成熟期に入り，内容の充実が求められる時期である。キルギスの教師が前面に，日本人は陰から支える役割へと変わっていくべきであろう。

報告者の派遣時期は，上記 2）拡大期の終盤から 3）成熟期の入口にあたる。次項では当時行っていた業務を述べる。なお，派遣時期には政権交代が起こり，一時は社会が混乱状態にあり，地方への長距離移動は難しくなった。直接触れる機会がなかったため，ここでは地方の日本語教育についての言及はしなかった。

3. 報告者の業務紹介

1) KRJC 日本語コース

主たるコースは一般成人向けであり，1 回 2 時間，週 3 回学び，4 年後の修了時には中上級に達するコース設計である。留学や日本関連の仕事に就くことを目標とする者から日本への関心, 楽しみのために学ぶ者と学習目的は様々である。入学時には 50 名の学生のうち修了するのは例年 8 名前後である。その他，子供向けのコース，上級コース，JLPT 対策等，ニーズに合わせた特別コースも開講していた。

報告者の KRJC での業務は次のとおりである。

・日本語コースのマネージメント，教師育成，授業担当

フェーズ 2 終了時の現地化，自立化という目標があり，キルギス人講師が質の高い授業

を行うとともに，授業だけでなくコース運営もできるよう，育成に時間をかけた。それまで授業のみを行っていた教師が，自分の授業だけでなく，コース運営まで目を向けるのは容易ではない。また非常勤講師の入れ替わりも多かったが，キルギス全体の日本語教師層も厚いわけではなく，教師育成は難しくあった。

また，コースへは，教室が日本語を学ぶ場だけではなく，同じ日本語を学ぶ仲間を作って楽しむ場となるよう意識した。キルギスと日本の接点は多くない。日本語を学んでも使う機会が少ないと嘆く声を学習者からよく聞き，できる限りの場を提供できるよう心掛けていた。しかしながら，日本語は「日本人」へ使うという考えから，自分と同じ日本語を学ぶクラスメートや KRJC の仲間と日本語でコミュニケーションするといったコミュニティ作りへ学習者の発想転換に努めた。

その他としては，以下が挙げられる。

・日本語関連イベントの企画・実施：全クラスの学生交流会，日本語カラオケ大会
・KRJC 事業への協力：さつき祭り，日本語で話そう会
・（教師会とは別に KRJC として）キルギスの日本語教育支援：他機関の訪問，相談受け，各種調整業務

2）（日本語教師会とともに）キルギスの日本語教育支援

・JLPT の実施
・キルギス日本語弁論大会の実施（年 1 回）
・教師が勉強する場の企画・実施（一例：本シンポジウム前段階にあたる 2011 年夏季集中セミナー）
・中央アジア日本語弁論大会及び教師セミナーの企画・実施
（中央アジア 5 カ国の学生が出場。実施はキルギス，ウズベキスタン，カザフスタンの 3 カ国で持ち回り）
・日本語関連イベントの企画・実施（作文コンクール，朗読コンクール）
・日本語普及活動の企画・実施（運動会，ドラマシアターでのイベント等）
・学校訪問

報告者がいた時期はキルギスの教師に関しては若手から中堅教師が少なくなり始め，日本人教師も減少している時期であった。「日本語学習者のために」「キルギスの日本語教育のために」と教師たちは理解していても，各自授業を抱えながら，上記の事業を実施するのは負担が大きかっただろうと改めて感じる。

4. うまくいったこと，うまくいかなかったこと

キルギスは独立後，市場経済化を進めつつも，経済的発展は厳しく，教師の給料も低い。文部科学省の研究留学生で日本へ行った者はキルギスに戻って教壇に立つことは非常に稀である。教師は女性が多いが，キルギスでは伝統的な価値観が強く，女性は家事に追われる。また，あくまで報告者の印象ではあるが，細かな継続的な努力を好むキルギスの人は少ない

ようである。このような社会構造，人の特性は簡単には変わらず，ましてや赴任する数年では変えられない。赴任地の事情・特性を理解・尊重し，必要かつ可能な部分をよりよい方向へ進むよう，現地で活躍する教師をサポートすることが数年で去る公的派遣者には必要な視点である。

1) 学習者

キルギスの教師とともに質の高い授業を提供する努力をした点，各種日本語関連行事を実施した点など，学習者は好意的に受け止めてくれただろうと推察している。少ない教師で多くの行事を実施するのは負担が大きい。大学の卒業生，KRJC の修了生に行事の企画から携わってもらう等，力を借りればよかったと改めて感じる。彼らが教育機関での日本語学習から離れた後もキルギスの日本語コミュニティに関わり続ける機会にもなるだろう。

2) 教師

教師育成に力を注いだが，これからという時に日本へ行く教師，やめてしまう教師，休職する教師は少なくなかった。継続的な育成，長期的な視野に立った教師育成は難しかった。それぞれに人生があり，人を「育てる」であるから，根気強く待つという視点が必要だろう。復職した教師，非常に稀ではあるが日本から戻ってきた教師が現れたことはうれしい。今後も教師育成は課題となる。キルギスでは教師の賃金は低く，教師を志望する学生は少ないという社会構造は避けられないが，学生にも教育現場の体験，シンポジウムへの参加機会を数多く提供する等，未来の教師を育てることを続ける以外にないだろう。

3) その他

もう少し力を入れたかったができなかったことは，中等教育支援，日本語普及活動である。中等教育は長く日本や日本語に関心を持ってくれる可能性があり，キルギスの人々へ広く日本や日本語を知らせる日本語普及活動は，将来の日本語教育を見据え，重要である。どうしても目の前の業務への対応へ目がいってしまうが，先を見通しての活動も必要な視点である。当時の自分を振り返り，目の前の事象から一歩引いてキルギス全体を，中央アジア地域を俯瞰的に眺める力が弱かった点を反省している。

5. 今後への期待を込めてまとめ

当時のキルギスの日本語教育は，規模は大きくないがまとまりがよかった。報告者自身キルギスの先生方，学生との多くの楽しい思い出が残っており，また，キルギスに赴任したことのある日本人からも赴任当時を懐かしむ声を聞く。成熟期を迎えたキルギスの日本語教育が今後どの方向へ向かうのか，それはキルギスの先生方にかかっている。今後への期待を込めてまとめと若干の提言を行う。

1) キルギス日本語教育の流れにおける報告者の 3 年間

キルギスの先生方が前に立つための準備期間であり，発表タイトルの通り「日本人からキルギスの先生方中心へ」と言える。

2) 成熟期と内容の充実

キルギスの日本教育は，量の拡大期が過ぎ成熟期に入り，内容の充実が求められる。社会の変化とともに，キルギスでも多様な学習者へ多様な日本語教育が行われるようになっている。学習者が多様になれば，教育も多様化するのが必然である。地域的に教師が学生に知識・情報を与えるといった伝統的な教育スタイルが強いが，「教える」から，「学びあう」，「つながる」を意識していく必要があるだろう。

3) 何とつながるか

何と何がつながるべきか，下記①～③は思いうかべやすいだろう。

①学習者とクラス内の他者，同じ学習機関内の仲間，他機関の仲間といったキルギス内のつながり

②キルギスと日本

③学習者と世界の日本語学習者，キルギスの日本語教育と世界の日本語教育

その他，この地域の特色として

④キルギスと中央アジアのほかトルコ及びロシア

周辺の中央アジア地域の連帯は必須である。その他，言語的にみると，キルギスはトルコとつながる。キルギス語はチュルク諸語の一つであり，トルコ共和国で話されるトルコ語，中央アジアの各国の言語（タジク語を除く）と言語的結びつきから研究，教材開発ができるはずである。

そして，かつてソビエト連邦構成共和国の一つであったことから，キルギスの社会・教育はロシアの影響を強く受けている。ロシア CIS 日本語教師会とのつながり他，巨大なロシア語圏として学術協力を続けることは非常に有益と考える。

⑤日本語と日本研究他，他の学術分野との協力

ロシア語圏では従来，日本語の教育は日本研究の一つの分野として考えられている。2019 年夏にキルギスで行われたシンポジウムでは，歴史学の発表がロシア語で行われ，モスクワの教員から有益なコメントがなされていた。たとえ発表する日本語教師の数が減ってきているとしても，日本研究，チュルク諸語，外国語教育他，分野を超えた学術協力で，今後もキルギスにおける日本語教育の質の向上，内容の充実を目指していけるのではないか。

以上，派遣は終わってからもキルギスへ心を寄せる者として，書かせていただきました。キルギス日本語教育の今後，ますますの発展を心より願っています。

編集委員会による執筆者紹介

黒岩幸子氏は，独立行政法人国際交流基金派遣日本語上級専門家として、2010 年 1 月から 2013 年 3 月までの間，キルギス共和国日本人材開発センターにて日本語教育に携わった。

特別寄稿
УДК: 811.52182-1/-9

学習者の自律を目指した音声学習・指導

中川　千恵子（國學院大學）

要約

本稿は，「キルギスにおける日本語教育開始30周年記念国際研究大会」の基調講演の報告であり、研究大会での内容を多少加筆修正した。キルギス人は，日本語発音にあまり問題点が無いようにみえることから，発音学習に対する関心は薄いかもしれない。しかし，聞き手にとって，よりわかりやすく，気持ちをアピールする話し方になる可能性があるのに学習を行わないのは残念だと言える。発音学習は，入門期のインプットと持続が重要である。また，学習者自身が自律的に学習を持続することが望ましい。その練習方法として，スラッシュ・リーディング法とICTを利用した方法を紹介した。

キーワード：発音学習，自律学習，持続，スラッシュ・リーディング，ICT

1. はじめに

コロナ下において，リモートで行う授業が増え，学習者自身が学習をマネージメントする必要性，つまり，自律学習の必要性が増したように思われる。一方，どの分野でも，学習は授業を受けて終わりではない。授業終了後も続けることが大事であり，発音学習においても同様である。学習者自身が自律的に学習を持続しなければならない。

しかしながら，もともと独学が好きだとか，向いている人は別として，ある程度，教師が指針を示したほうが良いかもしれない。持続のためには，学習者自身が，発音学習の必要性を自覚して，学習目標や方法を明確化して自分でマネージメントすることが大切である。その方法として，学習をPDSサイクル化（Plan, Do, See）してみることが役立つだろう。自分がどんな発音になることが望ましいかの目標を考え，そのための学習方法を知り，プランを立てる(Plan)，自分に合った学習方法を選択し練習する（Do)，目標に到達したかを見て評価する（See）というサイクルである。目標を達成したら，次の目標を設定し，達成しなければ他の方法を選択する。教師の役割は，学習者が自分でマネージメントする能力を持つよう，支援し助言を与えることであろう。練習方法を自分で探せる場合は任せるし，探せない場合，様々な方法を紹介できるようにすることも教師の役割となるだろう。自律学習と言っても，教師の役割は重要である。

さらに，発音は言語活動の中の一部だと捉える必要がある。発音練習をしたけど，スピーチのときは下手だったという教師の声を聞いたことがあるが，発音練習と実際の活動が乖離することなく，活動の中で発音練習を行うべきだろう。Lasen-Freeman（2001)は，文法について，意味（meaning)，形式（form)，運用(use)の 3 つの面が繋がった活動を行う必要があ

ると言っているが，発音学習においても同様である。会話練習をしながら発音練習を行うこと，スピーチの練習をしながら発音練習を行うことは必要であると同時に可能である。

最も重要なことは，入門期に発音学習を行うことである。ある程度化石化してから「矯正」を行うことは，学習者・教師双方にとってメリットがない。新しいことを学ぶことは楽しいが，今の自分を否定されることは，だれしも楽しい事ではないだろう。

2. なにを学習するのか：目標の明示化

2-1. 発音とは：音声の基本

本稿で言う発音とは何かについてまず明らかにする。

1）単音（分節音 segment）

発音というと，母音や子音等の単音の問題と考えられがちである。日本人なら，英語の”r”や”l”の発音が苦手というように，指摘しやすく目立つが，習得しにくい。多くは諦めるか，ときどき学習意欲が復活したりするが，また諦めたりというような人も多いだろう。

2）拍

学習者の母語では，1 個の母音を含む「音節」が実際の発音の最小単位だが，日本語では，母音の無い特殊拍（長音「―」促音「ッ」撥音「ン」）も「拍」であり，最小単位になる。そのため，音節単位で発音する学習者の発話では，特殊拍が短かったり，脱落したりすることがあるが，日本語母語話者にとってはリズムが崩れているように感じられる。

3）アクセント

アクセントは単語内の声の高さの変化である。単語内で下がるところがあるかどうか（アクセント核の有無），一度さがったら二度と上がらないという規則があり，アクセント型には 4 つの型がある。以下はアクセント核の差異による 4 つの型と単語例である。

頭高型（あたまだかがた）：雨（あ┐め）箸（は┐し）み┐かん

中高型（なかだかがた）：暑い（あつ┐い），歩く（ある┐く）

平板型（へいばんがた）：行く（いく），遊ぶ（あそぶ），地下鉄（ちかてつ）

尾高型（おだかがた）：弟が（おとうと┐が），妹が（いもうと┐が）

平板型と尾高型は，単語だけで見ると同じだが，助詞が付くとアクセント核があるのが尾高型であることが違う。平板型は無核でその他は有核であるとも言える。厳しい規則で分けられるようにみえるが，名詞でも「でんしゃ」と「で┐んしゃ」の両方が使われるし，形容詞になると，「おいしい」も「おいし┐い」も許容されるし，「わ┐かく」と「わか┐く」が同一話者でも使われるなど，バリエーションも結構あるので，学習項目をどのようにすべきか迷うところである。東京方言のアクセント型は，社会的に決まっているのでアクセント辞典がある。通常学習者は東京方言を学習する。

4）イントネーション

アクセント同様声の高さの変化であるが，イントネーションは文単位の高さの変化になり，話し手の意図によって変わる。例えば，疑問文末で文末が上がることなどである。日本語のイントネーションは，声が文頭から上がって（1 拍目と 2 拍目の高さが異なることが多い），文末にかけて下がる「へ」の字型イントネーションを描くのが基本であるが，文中でも単語のアクセント型は保持される。

5) パラ言語情報（para-linguistic information）

2) から 4) は，1) の分節音に対して超分節音（suprasegmental, prosody）あるいは韻律と呼ばれ，直接的に発音に関係する。パラ言語情報は，声の大きさ，高さ，長さ，速さ，調子などで表現され，発話意図，雰囲気，ニュアンス，感情などに関係するので，気持ちを表すためには，非常に重要な音声要素と言える。

2-2. キルギス人日本語学習者の音声特徴

発表前に聞いた研究会でのキルギス人の先生方の発話は，先生方ということもあるだろうが，とても聞きやすかった。キルギス人は発音学習が必要なのだろうか。なぜ筆者が講演をする必要があるのだろうかと疑問を抱いたが, 細かく聞くと以下のような特徴が観察された。

1) 単音はあまり問題ない。入門期に確認すれば，あとで矯正の必要はないだろう。

2) 特殊拍は，長さが足りない場合が観察された。拗音が含まれると逆に長くなる場合もある。「集中（しゅうちゅう)」「流出（りゅうしゅつ)」「受講（じゅこう)」「助言（じょげん)」「困難（こんなん)」などである。「兄弟（きょうだい)」は，「巨大（きょだい)」と，「習得（しゅうとく)」は「取得（しゅとく)」と混同されるかもしれない。

また，学習者にアクセント型の異なる単語を入れた文を読んでもらい，その音声を分析してみたところ，

3) アクセントを区別する意識は無く，全て同じような型で発音していた。

4) 句切るところ（句末）で上昇する人が少なからず見られた。つまり，基本的な「へ」の字のイントネーションになっていなかった。

5) 意味の句切れなしの棒読みなので，伝わりにくかったり，内容（気持ち）がアピールしなかったりするという印象があった。

2-3. キルギス人日本語学習者に必要な発音学習：発音の目標設定

基本目標は,「聞き手にとってわかりやすく聞きやすい発音で聞き手に内容や気持ちが伝わる（アピールする）こと」である。それ以上は学習者自身が目標を決めるのに任せたい。入門レベルでしっかり知識を学習し，あとは基本的に学習者に任せる。日本語レベルが上がってもっと日本人のような発音になりたいと思ったときでは遅すぎる。特に，アクセントを後になって導入するのはあまりにも負担が大きいので，最初からアクセントの概念は理解してもらったほうが良いだろう。

意味の切れ目（句切り）で少しだけポーズを入れることで「へ」の字になるようにすることと，拗音・特殊拍の長さに気を付けるだけで十分目標を達成できると考えられるので，この 2 点の練習方法である「スラッシュ・リーディング」と「リズム練習」を具体的に詳しく説明する。

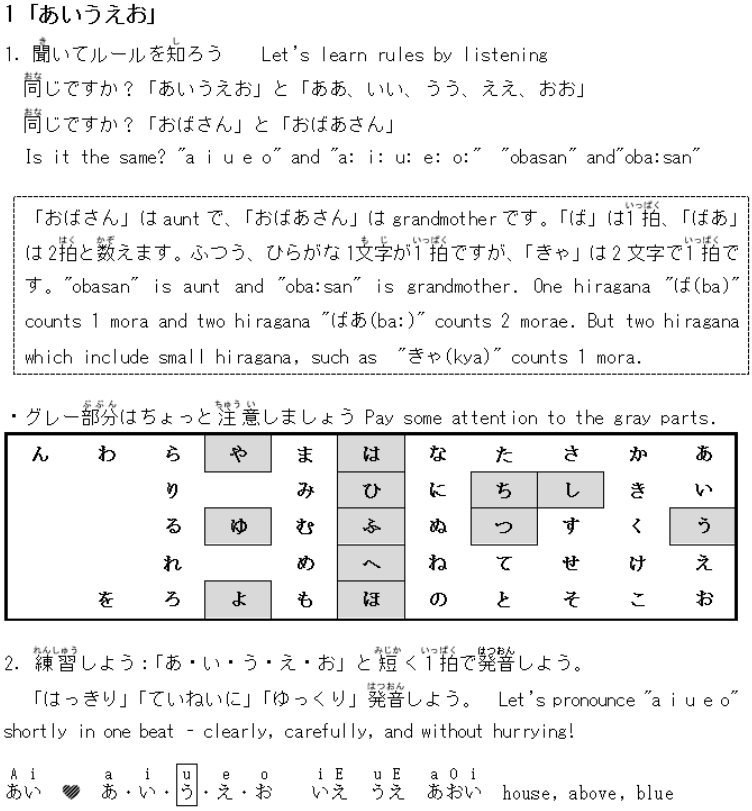
3. 練習方法

3-1. 入門期に発音の基礎導入

日本語学習者には，レベルが中上級に達してから「矯正」というマイナスな響きを持つこ

とをしないで済むように，入門期に発音基礎知識を持ってもらうことが重要であるだろう[1]。

1) 文字（「あいうえお」など）学習時に発音学習を行う。単語には，訳を付けて発音練習を行う。



1「あいうえお」

1. 聞いてルールを知ろう　Let's learn rules by listening
同じですか？「あいうえお」と「ああ、いい、うう、ええ、おお」
同じですか？「おばさん」と「おばあさん」
Is it the same? "a i u e o" and "a: i: u: e: o:"　"obasan" and"oba:san"

「おばさん」は aunt で、「おばあさん」は grandmother です。「ば」は1拍、「ばあ」は2拍と数えます。ふつう、ひらがな1文字が1拍ですが、「きゃ」は2文字で1拍です。"obasan" is aunt and "oba:san" is grandmother. One hiragana "ば(ba)" counts 1 mora and two hiragana "ばあ(ba:)" counts 2 morae. But two hiragana which include small hiragana, such as "きゃ(kya)" counts 1 mora.

・グレー部分はちょっと注意しましょう Pay some attention to the gray parts.

ん	わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
		り		み	ひ	に	ち	し	き	い
		る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う
		れ		め	へ	ね	て	せ	け	え
	を	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お

2. 練習しよう：「あ・い・う・え・お」と短く1拍で発音しよう。
「はっきり」「ていねいに」「ゆっくり」発音しよう。　Let's pronounce "a i u e o" shortly in one beat - clearly, carefully, and without hurrying!

A i　a i u e o　iE uE a O i
あい　あ・い・う・え・お　いえ　うえ　あおい　house, above, blue

図１　『1. はじめようはつおん_1 章』より

2) キルギス語にない単音発音は，声道断面図などを活用して理解してもらう[2]。特に，図 2 のように，イ段や拗音（キ・キャ・キュ・キョ等）は舌が盛り上がっているが，それ以外は盛り上がっていない点に注意する必要がある。前述のように，キルギス人の発音に，拗音が含まれる場合，1 拍なのに長音のような発音になることが少なからず見られたので，この点は注意してもらいたい。

[1] 発表では，入門レベルの発音素材集，『1. はじめようはつおん_1 章』および『1. はじめようはつおん_2 章』の紹介をした。図 1 は，1 章の最初のページである。私家版で，希望者に配布している。

[2] ブリティッシュコロンビア大学の発音サイト（https://enunciate.arts.ubc.ca/japanese/lets-practice/）も役に立つ。

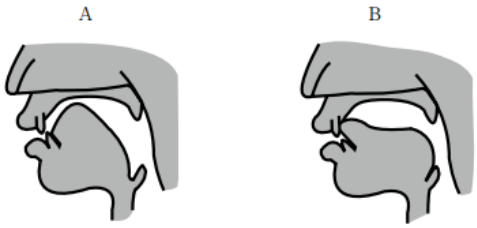


図 2　A イ段・拗音と B それ以外の下の形（国際交流基金 2009、木下，中川 2019a より）

3) 特殊拍「ッ」「―」「ン」は 1 拍の長さがあることを理解させる。練習方法については後述する。

4) アクセント知識は，はじめから導入する。覚えるかどうかは学習者次第であるが，少なくとも知識がなければ気づかない。後になって急に導入すると学習者の負担が大きいし習得が難しい。日本語の名詞アクセントは，バラバラで規則性が無いため，覚えるのが大変だが，規則性のある動詞の活用形アクセントはバリエーションも少ないので，活用形を覚えるのときに声を出して練習すると効果的である。後で紹介する「オンライン日本語アクセント辞書（OJAD と略す）」が便利である。

5) 「へ」の字のイントネーションについても初めから導入する。図 3 のように，ローマ字を黒板に書いて，自己紹介文を黒板に描いて「へ」の字を描いて練習後，文字を消して紹介し合うような活動も初日からできる。「スラッシュ・リーディング」の第 1 段階である。

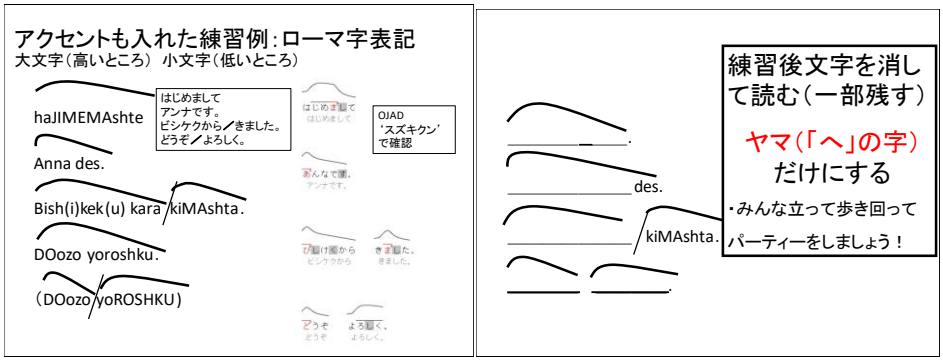


図 3　入門レベルの「へ」の字イントネーションの練習例

3-2. スラッシュ・リーディング

1) スラッシュ・リーディングとは

図 4 は，聞き手にとってわかりやすく聞きやすい日本語スピーチを録音し，音響分析したものである。抽出されたピッチ曲線は無声子音やポーズで断絶があるが，声の高さの変化が観察できる。分析の結果，日本語イントネーションの 3 要素が観察された。意味のまとまりの音調的「句切り」（/で示す），句切りと句切りの間の句（フレーズ）のピッチ曲線が上がって下がる「へ」の字である，その形状はアクセントの有無，および，位置（ㄱ）によって異なる（中川 2000）。

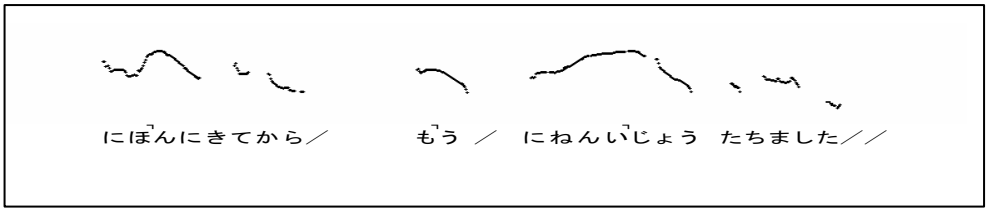


図 4　ピッチ曲線（中川他 2009 から）

図 5 のように，3 要素を手描きで学習者に示した結果，効果が確かめられた（中川 2001）。そこで，「フレージング学習法」として，①「句切り」（/），②「へ」の字のイントネーション，③アクセント（ ˥ ）の 3 要素を，手で描いて視覚的に示して，耳でモデル録音を聞くやりかたを提案した。

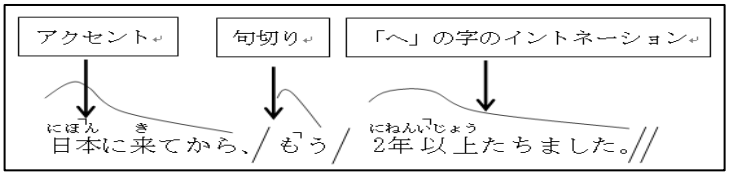


図 5　手描きのマーク（中川他 2009 から）

「フレージング学習法」は，学習者自身が自分の文章に，意味の句切りを入れて，アクセント辞書を使ってアクセント核を書き入れ，イントネーションのカーブを描いて，読む練習をする方法であり，視覚的に確かめることができるという点では画期的であったが，アクセントという難題が壁になっていた。図 5 では，フレーズのアクセント核は第 1 アクセントだけにして，第 2 アクセント以降は弱まるので義務としないことで学習者の負担を減らすようにしたが，それでもコース終了時のアンケートでは，アクセントは諦めるという意見が書かれていた。

そこで，ノンネーティブの教師でも指導可能で，学習者自身も続けられる「スラッシュ・リーディング学習法」を提案した。「句切り」と「への字」の 2 要素だけでも十分わかりやすく聞きやすい発音になる。学習者が学習可能（learnable）であり，教師も指導可能（teachable）であり，実行可能な役に立つ（usable）ということに主眼を置いた（Talor1993）。

2) 練習方法

図 6 は，発表で使用したワークシートの内容である。「つたえるはつおん」（https://www.japanese-pronunciation.com/）の「動画で学ぼう」→「聞きやすくてわかりやすい発音をしようースラッシュ・リーディング」から例を挙げた。

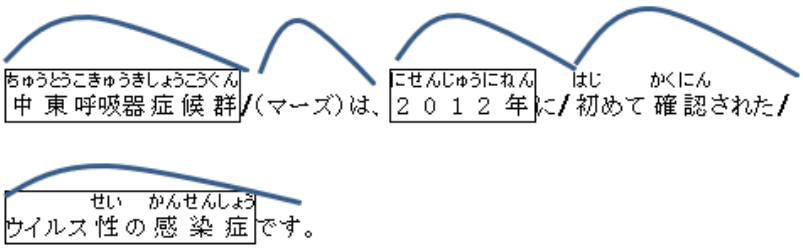
例文：中東呼吸器症候群（マーズ）は，2012 年に初めて確認されたウイルス性の感染症です。

①伝えたい・アピールしたい・大事なことばにマークする。（マーカーで色を付けても良い）
中東呼吸器症候群（マーズ）は、2012年に初めて確認されたウイルス性の感染症です。

②①の文に、漢字と数字にひらがなをつける。（ルビは大きくすると見やすい）
ちゅうとうこきゅうきしょうこうぐん
中 東 呼吸器 症 候 群（マーズ）は、にせんじゅうにねん
２ ０ １ ２ 年に はじ 初めて かくにん 確 認されたせい かんせんしょう ウイルス 性 の 感 染 症です。

③②が終わったら、スラッシュ「/」か「、」を加えてください。
ちゅうとうこきゅうきしょうこうぐん
中 東 呼吸器 症 候 群/（マーズ）は、にせんじゅうにねん
２ ０ １ ２ 年に/ はじ 初めて かくにん 確 認された/せい かんせんしょう ウイルス 性 の 感 染 症です。

④③が終わったら、「へ」の字のカーブをつけてください。（カーブをコピー＆ペーストするか「挿入」「図形」「曲線」で自分の好きな線を描いてください）カーブが描けるように行を空けてください。



⑤大きい声で読む練習をしましょう。

図６　スラッシュ・リーディング実践例（「つたえるはつおん」より）

句切り（/）を入れる位置が難しいともいえるので，ポイントを挙げた。例えば，大事な言葉の前，助詞の後（全部に入れるわけでない），「そして，しかし，昨日，今日，明日・・・」（強調する様な接続詞・名詞・副詞など），「～と～たり，～と，～て，～が，～たら，～ので，～とき」（ことばを並べたり，時・理由をあらわしたりすることばの後），だいたい 15 拍以内の意味のまとまりとしたが，日本語レベルや早口かゆっくり話すかによっても個人差がある。

3-3. リズム練習

スラッシュ・リーディングに加えて，特殊拍の練習であるリズム練習を実行すれば，聞き手にとって聞きやすくわかりやすい発音という目標はほぼカバーできるだろう。

図７　２拍１フットのリズム練習

図７は，「2 拍 1 フット」としてリズムをとる方法である[3]が，これ以外にもいろいろ方法はあるので，「つたえるはつおん」を参照されたい。長音や促音の長さの説明や理解させることは難しい。「タン・タン」と言いながら，手を叩いたり，身体でリズムをとったりするやりかたが有効である。

3 - 4.　ICT（情報通信技術 Information and Communication Technology）の活用

自律学習には，ICT が便利だが，教師も学習者も向き不向きがあるだろう。しかし，教師が苦手だからと言って紹介しなかったら学習者にとっては不利益になる。苦手な場合は，紹介だけにしてあとは学習者に選択してもらおう。興味があるなら，共に使ってみたほうがより効果的である。

1)　「つたえるはつおん」https://www.japanese-pronunciation.com/

図８　「つたえるはつおん」サイト（扉ページ）

[3] 図８の２拍１フットの作り方は，国際交流基金の磯村和弘氏の提案をそのまま借用した。

「つたえるはつおん」はフリーの発音学習サイトであり，図 8 の左図にあるように，英語他いくつかの言語を選べる。右図の「サイトのつかいかた」動画で使用法を知ることができる。「発音クイズ 10 問」で自分の弱点を知り，「会話で確認しよう」では，その弱点に沿って説明を読んだり聴解練習したりできる。さらに，「動画で学ぼう」では，3～5 分程度の動画でリズム，アクセント，イントネーション，母音・子音等の練習方法の紹介のほかに，気持ちの表し方やいくつかの方言などを紹介している（木下，中川 2019b）。各動画には，説明部分があるので，2 つのブラウザを使えば，図 9 のように，右画面の説明文で説明を加えながら，左画面の動画を視聴することも可能である。

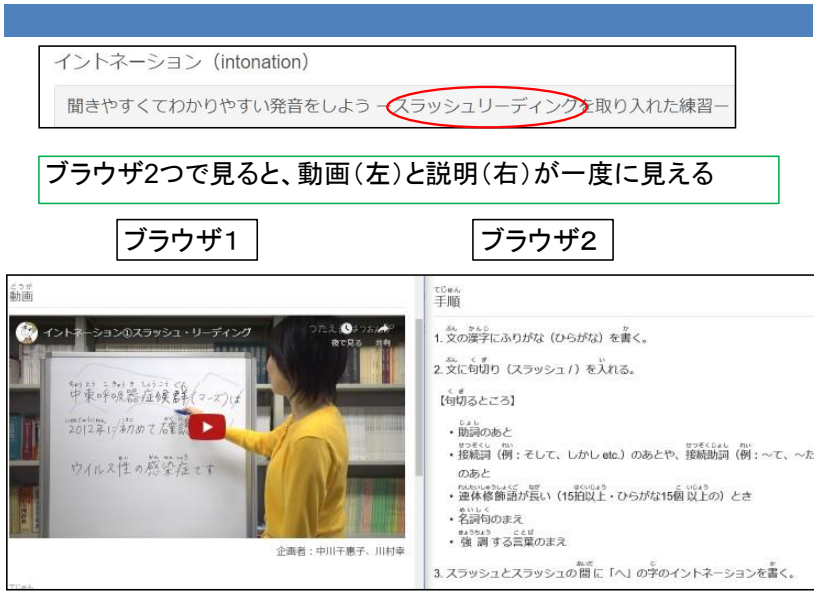


図 9　「つたえるはつおん」2 ブラウザで動画を見る

2) オンライン日本語アクセント辞書（OJAD）http://www.gavo.t.u-tokyo.ac.jp/ojad/

図 10　オンライン日本語アクセント辞書（OJAD）扉ページ

OJAD もフリーのサイトである。図 11 の「単語検索」機能を選べば，教科書の含まれる動詞，イ形容詞，ナ形容詞の活用形を学びながら音声を聞くことができる。名詞は音声がない。日本語の動詞アクセントは，規則的なので，後になって練習するより初めから練習したほうが有効である。Shift キーを押しながら左クリックすれば音声をダウンロードすることもできる。

図 11　単語検索

図 12 の「韻律読み上げチュータスズキクン」機能では，左図のように好きな文章を入力すれば，右図のような視覚的マークが自動的に出てくる。マークを見て音声を聞きながら発音練習できる。その際，スラッシュ・リーディングで学習したように，適当な位置で／を入れれば，より読みやすく聞きやすい読み方になる。

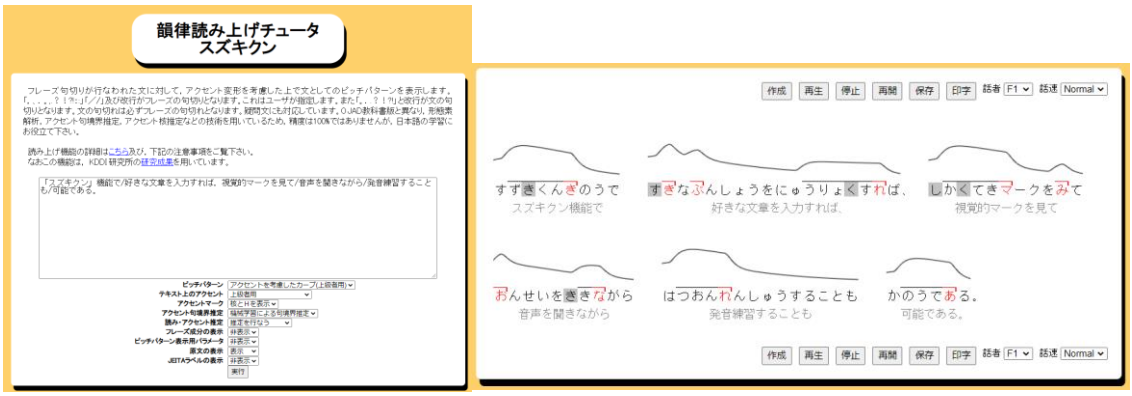


図 12　韻律読み上げチュータスズキクン

3-5. 評価方法

教師やクラスメートに評価やコメントをもらう他に，2 つの方法を提案したい。第 1 に，学習者自身が自分の音声を常に録音して聞くことである。他人に頼っているばかりでなく，常に存在する揺るぎない自分が聞くことがいちばんである。初めは慣れなくても次第にわかっていくと思うし，効果を期待したい。第 2 は，音声分析ソフトによって視覚的に自分の音声を観察する方法である。無料でダウンロードできる音声分析ソフト Praat（https://www.fon.hum.uva.nl/praat/）のダウンロード方法や使い方については，「つたえるはつおん」の動画を参照されたい。3 分程度の動画で簡単な使い方を紹介している。

3-6. 楽しみながら発音練習

発表では，早口言葉で出席を取ったり，口の運動をしたりするウォーミングアップの方法を紹介した。また，「ふーん」や「へー」などの感動詞（間投詞・感嘆詞）を加えることで，会話が楽しく自然になるし，気持ちを表すことで楽しく発音学習できる[4]。

4. 終わりに

以上，いろいろ述べてきたが，以下の 4 点を特に強調したい。

1）発音指導は入門期にしっかり
2）後で矯正より新しいことを学ぶことは楽しい
3）楽しく続けられることをする
4）「ゆっくり・はっきり・（意味で）区切って言う」が基本

人がどのようにものを覚えるか，何をどのような仕方で教えてゆくのがいいのかについて日頃から抱いている考え方をブルーナー（2004）は，フォークペダゴジーと呼んでいる。教師それぞれが各自のフォークペダゴジーを持っていると考えられ，教育学や指導法を学んでも，結局は自分のやり方をとるだろう。こうした講習会を受けても，興味なければ取り入れないのは当然のことである。インターネットは便利であるが，テレビやラジオのように受身なものではない。使うものが能動的に動かなければ有効ではない。自分が何を好きなのか，何が得意なのかをしっかり把握して選択することが，教師にとっても学習者にとっても大事なのではないだろうか。

例えば，「スラッシュ・リーディング」や視覚的マークを見ながら発音学習を行う方法についても，筆者自身のフォークペダゴジーが関係しているだろう。つまり，単語で発音すると単音の発音は目立つが，改善は容易ではないと考えている。同じように，発音は苦手で嫌だと思う人が多いのではないだろうか。しかし，句切りと「へ」の字は簡単に取り組むことが出来るし，効果的である。まず「できる」ことを伸ばすことが大事だと筆者は信じている。

最後に，コロナ時代を乗り越えることについて述べたい。変化を大変だと考えるか，楽しいと考えるかで違ってくると思う。対面でできないデメリットはあっても，リモートによって，今まで受講できなかった人も受講できる可能性が広がる。教師がいないメリットは，自律的に学びを続ける能力を育む可能性がある。しかし，教師がいるメリットは最大限利用す

[4] 参考文献にあげたテキストには，練習例が書かれているので，ご興味ある方は参照されたい。

べきであろう。教師は常に学習者を支援する重要な役割を持っている。

参考文献

ブルーナー，J.S.（2004）『教育という文化』，岩波書店
木下直子，中川千恵子（2019a）『ひとりでも学べる日本語の発音』，ひつじ書房
木下直子，中川千恵子（2019b）「気持ちを伝える音声の Web 教材「つたえるはつおん」」『ICT×日本語教育』，當作靖彦監修，ひつじ書房、p.254-268.
国際交流基金（2009）『音声を教える』，ひつじ書房
Lasen-Freeman, D（2001）Teaching Grammar. In Marianne Celce-Murcia (Ed.) Teaching English as a Second or Foreign Language, pp.251-283, USA: Heinle and Heinle
中川千恵子（2000）『日本語学習者のプロソディー習得とその指導法』，お茶の水女子大学大学院平成 12 年度博士論文
中川千恵子（2001）「「へ」の字型イントネーションに注目したプロソディー指導の試み」『日本語教育』，第 110 号日本語教育学会，pp.140-149
中川千恵子，中村則子，許スンジョン（2009）『さらに進んだスピーチ・プレゼンのための日本語発音練習帳』，ひつじ書房.
中川千恵子，中村則子（2010）『にほんご発音アクティビティ』，アスク出版
中川千恵子・木原郁子・赤木浩文・篠原亜紀（2015）『にほんご話し方トレーニング』，アスク出版
Taylor, D.S. (1993) Intonation and accent in English: What teachers need to know. International Review of Applied Linguistics 31(1), 1-21

「つたえるはつおん」 https://www.japanese-pronunciation.com/＜参照 2021.11.22＞
「オンライン日本語アクセント辞書（OJAD）http://www.gavo.t.u-tokyo.ac.jp/ojad/ ＜参照 2021.11.22＞

О методах изучения и преподавания фонетики, направленных на повышение самостоятельности учащихся

Тиэко НАКАГАВА
(университет Кокугакуин)

Абстракт

Данная статья представляет собой отчет об основной лекции, прочитанной на Международной научной конференции, посвященной 30-летию начала преподавания японского языка в Кыргызстане, с небольшими изменениями. Похоже, что кыргызы мало интересуются проблемами произношения при изучении японского языка, поскольку кажется, что оно не представляет для них трудностей. Однако жаль, что они не учатся правильному японскому произношению, так как оно могло бы сделать их речь более понятной и привлекательной для слушателей. При изучении произношения важно введение на начальном этапе и поддержка в дальнейшем. Кроме того, желательно, чтобы учащиеся непрерывно продолжали самостоятельное изучение. В данной статье в качестве методов тренировок представлены метод чтения с разбиением на смысловые фрагменты (slash reading) и метод изучения с использованием информационно-коммуникационных технологий (ИКТ).

Ключевые слова: изучение произношения, самостоятельное изучение, поддержка, метод чтения slash reading, ИКТ

研究ノート

УДК: 811.111

日本語母語話者とキルギス語母語話者同性の二者間会話におけるフィラーの特徴

ジョルブラコワ　マイラム（キルギス国立総合大学）

要約

本稿は2017年に発行した研究「フィラーの機能と役割に関する日本語とキルギス語の対照研究」 の続きである。前回は会話における日本人女性とキルギス人女性のスピーチにおけるフィラーの機能と役割が考慮され，今回は男性のスピーチにおけるフィラーの機能と役割を考察する。

調査の結果は日本語母語話者のフィラーの使用率が多かった。これは日本語母語話者は，相手の心情を考察しながら，発話を和らげていたことが影響しているためと考えられる。キルギス母語話者のフィラーの使用率が低い結果であった理由はキルギス人男性のメンタリティーからくるあまり肯定的でない思考のためであると考察する。

キーワード：フィラー，使用率，発話，会話分析，使用頻度

1. 研究の背景と目的

日本語母語話者の日常会話を観察すると，「あのー」，「ええと」，「ええ」，「なんか」，「まあ」などのフィラーが頻繁に用いられる。

「フィラー」とは「それ自身命題内容を持たず，かつ他の発話と狭義の応答関係・接続関係を持たない，発話の一部を埋める言葉」と定義される（山根2002）。中島（2011）は「それを取り去っても伝達する文・談話の命題内容に変化を及ぼさないもの」と定義している。日本語を学ぶ若者が増加しているキルギス共和国では，自然な日本語か話せるようになることを目指す日本語学習者は少なくない。そうした自然な日本語を習得するためには，フィラーの適切な使用が重要になると思われる。

キルギス語に関してはキルギス語会話でよく用いるフィラーは「自立的に語彙内容を持たない言葉」と呼ばれ文法では間投詞や助詞として扱われている。キルギス語では，フィラーは形態論の分野で，品詞として「補助語」という名称を持ち，その中で「接続詞」「後置詞」「助詞」「特別詞の中間投詞」の4つとして検討されている。キルギス語研究では言語学分野で様々な研究がなされているが日本語ほど国語に対して深く研究が進んでいると言えない。

キルギス共和国では日本語教育が開始され，30年が経過した。その間，日本語とキルギス語の文法や語彙等の形式的な部分での対照研究は進んでいるが，フィラー等の談話レベルでの分析の研究は進んでいないのが現状である。

本研究では，フィラーが実際に会話の中でのどのような機能や役割を担っているのか，日

本語とキルギス語，男性と女性の性差の観点から明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究の分析

ジョルブラコワ（2017）では，キルギス語と日本語のフィラーの機能や役割を女性同士の会話を対照して分析をした。ジョルブラコワ（2017）では，表 1 のように日本語母語話者（JNS）同士，キルギス語母語話者（KNS）同士，日本語母語話者（JNS）とキルギス人日本語学習者（KJLS）の 3 組の会話を分析した。

表 1　回答者と収集時期

ペア	JNS ペア	KNS ペア	JNS と KJLS ペア
性別	女性 2 名	女性 2 名	女性 2 名
年齢	A：29 歳 B:32 歳	C：26 歳　D:28 歳	A：29 歳　E:33 歳
会話言語	日本語	キルギス語	キルギス語
収集時期	2017 年 4 月-5 月		

中島(2011)の研究の方法を参考にし，会話におけるフィラーの出現数を算出した。3 組の会話を分析した結果，表 2 のような結果が得られた。

表 2　JNS，KNS，KJLS によるフィラーの使用数と割合

発話者	発話文数	フィラーの使用数	使用率（%）
JNS ペア	292	287	98.2%
KNS ペア	176	125	71.2%
JNS と KJLS	105	101	96.1%

調査の結果，日本語母語話者のフィラーの使用数一番高かった。その理由は，日本語母語話者は，相手の心情を考慮しなから，発話を和らけていることか影響しているためであると考えられる。日本語のフィラーで使用頻度が高かったのは，「ネ」「ソウ」「サ」である。フィラーの出現位置で最も多いのは発話途中のフィラーである。話し手が聞き手の注目を集めようとして用いる「ネ」は会話で頻繁に使用された。その理由は女性同士の会話であることも一因である。キルギス語の会話でも「Ээ」（日本語で「ネ」の意味）は男性会話より女性の会話でよく使用される。機能も日本語と全く同じで，話し手が聞き手の注目を集めようとして用いている。

キルギス語母語話者（KNS）のフィラーの使用数は日本語母語話者より低い結果であった。その理由はキルギス語の会話で頻繁に用いられるフィラーは話し手に対してあまり良くない印象を与えるからだと思われる。キルギス語会話における使用頻度が高いフィラーは，Ммм（日本語で「ウーン」の意味），Ошо（「ソウ」），Аа（「アー」）であった。フィラーの出現位置で最も多いのは日本語と違って発話頭であった。また，一般的にキルギス語で会話中に用いられるフィラーの種類は日本語と比べて少ないことがわかった。

日本語母語話者とキルギス人日本語学習者の会話（JNS と KJLS）のキルギス語会話におけ

るフィラー使用率は，日本語母語話者同士の会話とほとんど変わらず，キルギス人母語話者同士の会話より高かった。使用頻度が高いフィラーは，「ウーン」「ン～」「デ」であった。フィラーの出現位置で最も多いのはキルギス語母語話者同士の会話と違って発話中のフィラーである。その理由としては，キルギス人日本語学習者は日本滞在経験が 6 年あり，日本語能力も高く，社会言語学的知識や語用論的知識も高いことか考えられる。また，聞き手か日本語母語話者であるために，会話の構成か日本語母語話者の影響を受けていることも考えられる。

ジョルブラコワ（2017）の課題を踏まえ，性別による違いがあるかどうかを調べるため，男性同士の会話を分析することにした。日本語とキルギス語の男性会話において，フィラー使用の相違点を明らかにして特徴を分析する。

3. 自然会話調査の概要

日本語母語話者（JNS），キルギス語母語話者（KNS），日本人キルギス語学習者（JKLS），キルギス人日本語学習者（KJLS）の男性に対し，「10 分程度自由に話してください」と指示し，由に会話をしてもらった。その会話の様子を録画もしくは録音し，文字起こしをし，得られたデータを分析した。

発話者は，1 組目は日本語母語話者同士のペア（A : 32 歳と B : 33 歳）で日本語会話，2 組目はキルギス語母語話者同士のペア（C : 23 歳と D : 24 歳）でキルギス語会話，3 組目は，日本人キルギス語学習者（A: 33 歳）とキルギス語母語話者（27 歳，日本語能力試験 N3 程度）でキルギス語会話，４組目は，日本人母語話者（36 歳）とキルギス人日本語母語話者（D:24 歳，日本語能力試験 N2 程度）のペアで日本語会話で表 3 のようになる。表 3 の JNS ペアの A，JKLS と KNS ペアの A は同一人物，KNS ペアの D と JNS と KJLS のペア D は同一人物である。A と D に日本語とキルギス語の両方で話してもらったのは，それぞれの言語でフィラーの出現数に違いがあるのかを調べるためである。

表 3　回答者と収集時期

ペア	JNS ペア	KNS ペア	JKLS と KNS ペア	JNS と KJLS ペア
性別	男性 2 名	男性 2 名	男性 2 名	男性 2 名
年齢	A:33 歳 B:32 歳	C: 23 歳 D:24 歳	A:33 歳 E:27 歳	F:36 歳 D:24 歳
使用言語	日本語	キルギス語	キルギス語	日本語
収集時期	2021 年 6 月 - 7 月			

4. 調査の結果考察

調査の結果，4 つのグループの中で日本語母語話者（JNS）のフィラーの使用数か一番多かった（表 4 参照）。これは，女性同士の会話と同じで日本語母語話者は，相手の心情を考慮しなから，発話を和らげていたことか影響しているためと考えられる。

日本語母語話者の使用頻度か高かったフィラーは「ウン」「ソウ」「ネ」の 3 種類であった。フィラーの出現位置で最も多いのは，発話頭のフィラーであった。

表 4　JNS，KNS，JKLS，KJLS によるフィラーの使用数と割合

発話者(使用言語)	発話文数	フィラーの使用数	使用率（%）
JNS（日本語）	247	288	116.3%
KNS（キルギス語）	182	107	58.7%
JNS と KJLS（日本語）	250	206	82.4%
JKLS と KNS（キルギス語）	208	144	69.2%

キルギス語母語話者(KNS)が使用するフィラーの使用率は日本語母語話者の半分以下であった。使用頻度の高いフィラーは，Ии（日本語で「ウン」の意味），Мммм（「ウーン」），Эме（「アノ」）の 3 種類であった。フィラーの出現位置で最も多いのは日本語と同じで発話頭のフィラーである。以下は，キルギス語の会話例である。

例：- Юридикалык академияга тапшырат бекен?　（法学部に入学するの？）
- Ии, мен ага 3 жылдан кийин уйлонолу дедим.
（うん，彼女に 3 年後結婚しようと言った）
- Ии（うん）

キルギス語の会話において，フィラーの使用率が少なかった理由は 2 つあると思われる。

1 つ目の理由は，キルギス語の会話によく出現するフィラーに対して S. Musaev（1993）等のキルギス語学を専門とする研究者からの否定的な評価にあると思われる。

話し手が何について話すか決まっていなかったり，言おうとする意見が曖昧だったり，自分が話す内容について知識があまりないとき等，フィラーが増えるが，肯定的な評価がされず，話すのが下手な人だと評価されるので，フィラーを用いたくないという心情がある。

2 つ目はキルギスの人のメンタリティだと思われる。つまり日本語母語話者と違って相手の心情を考慮しながら発話を和らげることはキルギス語の男性会話で多くの場合はあまり意識されていない。また，男性の会話は短くて明確であることが理想的だと考えられる。

しかし，この 2 つの理由だけで一般的に日本語とキルギス語の男性会話でのフィラーの機能と役割の違いについて結論づけることは難しい。個人の性格，世代差，社会的地位，仕事などの観点から分析する必要があると思われる。

日本語母語話者とキルキス人日本語学習者と（JNS と KJLS）の日本語会話におけるフィラーの使用率は，JNS より低く，KNS，JKLS と KNS より高かった。使用頻度の高いフィラーは，「ネ」「ウン」「アノ」の 3 種類が多かった。フィラーの出現位置で最も多いのは，発話頭のフィラーである。

日本人キルギス語学習者とキルギス語母語話者（JKLS と KNS）　のキルギス語会話におけるフィラーの使用率は KNS より高く，JNS，KJLS と JNS よりも低かった。使用頻度の高い

フィラーは，「Аа」（日本語で「アー」の意味），「Ии」（ウン），「А」（「ア」）の 3 種類だった。フィラーの出現位置で最も多いのは，発話頭のフィラーであった。

JNS と KJLS の会話では，日本語母語話者が頻繁に使う「ア」が多かったが，キルギス語での会話の場合は，「a」（「ア」）は頻繁に使用されない。男性のキルギス語母語話者が会話で「a」（「ア」）を使うと，会話をやわらげすぎているように見られるので肯定的に評価されないからである。以下がその例である。

例：-А саламатсызбы!　　－あ，こんにちは！
-Саламатсызбы!　　－こんにちは！
-А кандайсыз?　　－お元気ですか？
-Жакшы рахмат.　　－元気です。
-А менин атым Сато.　　－あ，私は佐藤です。

日本語とキルギス語の会話で頻繁に出現する「ネ」，「Ээ」はジョルブラコ（2017）では，女性の会話でよく使用されるフィラーと示したが，日本語の男性会話においても日本語母語話者の「ネ」の使用率が最も高かった。日本語の「ネ」もキルギス語の「Ээ」も女性会話では，話し手が聞き手の注目を集めようとして用いる機能を持つ。また，日本語の「ネ」もキルギス語の「Ээ」も話してが聞き手に対してすでに知っている情報かどうかを確認するために使われる機能も持つが，「ネ」の使用頻度は日本語母語話者の方が多い。

次に，男性会話でどのペアでも使用率が一番高かったフィラーの「ウン」は日本語では話し手の納得を示す機能を持つとされている。

例：－ 6 年生は歴史のところとかあの
－うん
－大事なところだけ抑えてポンポンポンポン進みやすいですけど
－そうです，うん，教科書もけっこうまとまっていますね。

日本語の「ウン」とキルギス語の「Ии」は同じ機能を持つが，キルギス語の「Ии」は，話し手の話を聞きながら言う応答詞や相づちとしても用いられ，短い時間で話を終わらせるために使うことが多い。

例：-Мобу эмени кызды айтып берейинби?　　－あのう，彼女について聞く？
-Ии　　－うん。
-Ошо, аны менен тойдо таанышкам　　－そう，彼女とイベントで知り合った。
-Ии　　－うん。

5. まとめと今後の課題

今回は，男性の日本語母語話者同士，キルギス語母語話者同士，日本人キルギス語学習者とキルギス人日本語学習者のキルギス語と日本語での会話の４組におけるフィラーの使用実態

や機能を分析した。調査の結果，日本語母語話者の会話でのフィラーの使用数と種類がキルギス語母語話者より多かった。それは日本語のフィラーは種類が多く，日本語母語話者は会話の中で相手の心情を考慮しなから，発話を和らげるためにフィラーを用いていたことが要因だと考えられる。キルギス語母語話者のフィラーの使用数が少なかった理由は，キルギス語言語学者のフィラーについての否定的な評価やキルギスの人のメンタリティにあると考えられる。キルギス語の男性会話において，会話が上手だと評価されるのは簡潔かつ明確でフィラーを用いずに話すことである。

会話の分析を進める中で，キルギス語会話において，若い男性が使用するフィラーは中高年世代の人が使わない俗語や悪口の類があった。そのため，世代によるフィラーの使用実態に違いがあるかどうかも調べる必要がある。

また，筆者は 2021 年 12 月に S. Musaev 氏に対し，フィラーに関しキルギス語学からの意見について尋ねた。同氏はキルギスにおけるキルギス語学権威であり，キルギスにおけるキルギス語政策を議論する国家語委員長でもある。S. Musaev 氏は，次のように述べた。

> 会話の中に頻繁に用いるフィラーは　会話の文化やきれいさとして見ればあまり良くないが，言語の性質としてフィラーの存在はパターン化している。言語学習者はフィラーの存在を必要でないものと見做しているがフィラーの存在は消えることはない。とにかく普通の会話で使用される。一方談話中時間を稼ぐまた会話を和らげる機能を持ち合わせている。言語学では，フィラーは 2 つの側面で考えられる。一つ目は談話の文化やきれいさのアスペクトで考えるとフィラーの使用は談話中に話す内容を妨げる。二つ目は反対に一般的に人間の心理的なアスペクトでは相手の話に対して時間を稼ぐ便利なものとして言語学でよく用いられる。

今回，コロナ禍のため，回答者には会話はオンラインで行ってもらった。そのため，オンラインで行った会話と実際に回答者同士がその場で話す場面の会話とは違いがあることも考えられるため今後本研究で実施したオンラインでの会話データと対面でのデータを比較し検証する必要があると考えられる。

参考文献

ジョルブラコワ・マイラム（2017）「フィラーの機能と役割に関する日本語とキルギス語の対照研究」，ビシケク人文大学大学院東洋学・国際関係学研究科 2016-17 年度修士論文

中島悦子（2011）「自然談話の文法」―疑問表現・応答詞・あいづち・フィラー・無助詞―』，おうふう

山根智恵（2002）『日本語研究叢書（フロンティアシリーズ）15 日本語の談話におけるフィラー』，くろしお出版

Мусаев С.Ж.（1993）Кеп маданиятынын маселелери, Бишкек

Функции и роль заполнителей в мужской речи японцев и кыргызов

Майрам ЖОЛБУЛАКОВА
(Кыргызский национальный университет)

Абстракт

Данная статья является продолжением научной работы «Сравнительный анализ функций и роли «слов-паразитов» в кыргызском и японском языках», которая была опубликована 2017 году.

В предыдущей работе рассматривались функции и роль заполнителей в женской речи японок и кыргызок в диалогах, а в данной работе рассматриваются функции и роль заполнителей в мужской речи.

Количественный анализ естественных диалогов показывает, что носители японского языка значительно больше используют заполнители для смягчения высказываний, учитывая чувства собеседника. В речи кыргызов использование заполнителей имеет не совсем положительную окраску согласно кыргызскому менталитету.

Ключевые слова: заполнители, процент случаев использования, высказывание, анализ разговора, частота использования.

学会・研究大会報告

キルギスにおける日本語教育開始30周年記念国際研究大会

アスランベック　クズ　グリザット
（キルギス日本人材開発センター非常勤講師）

2021年はキルギスでの日本語教育が開始されてから30年の節目を迎える年であった。キルギスの日本語教育開始30周年を記念し，キルギス共和国日本語教師会では「キルギスにおける日本語教育開始30周年記念日本語教育国際研究大会」と題し，2021年8月21日と22日の2日間にわたり開催した。世界的な新型コロナウイルス感染拡大の影響を考慮し，zoomを用いオンラインで実施した。オンライン大会の企画と実施にあたり，独立行政法人国際交流基金より助成事業としての後援をいただいた。

研究大会の開会に当たって，キルギス共和国日本語教師会会長イシライロワ・ジルディズ先生，駐キルギス共和国日本国特命全権大使前田茂樹氏，JICA キルギス共和国事務所所長根本直幸氏，ロシア・CIS日本語教師会会長ネチャーエヴァ・リュドミラ先生，キルギス共和国日本語教師会賛助会会員である高橋知也先生が挨拶を行った。

口頭発表者は国内だけでなく，日本，ロシア，エジプト，ブラジル，カンボジア，ブルガリアと国際大会という冠にふさわしく世界各国から発表者を迎え、議論を交わした。特に．大会 1日目は，キルギスにおける日本語教育史を中心とした発表があった。個々の発表テーマの詳細については次の通りである。(1) ヴォロビヨワ・ガリーナ先生「キルギスの日本語教育～30年の歩みと人々」，(2) 伊藤広宣先生「キルギスの日本語教育30年に関して」，(3) モルドガジエフ・リスベック先生「私の日本語教育」，(4) イシライロワ・ジルディズ先生「キルギス共和国日本語教師会20年の歩み」（発表協力：氏原名美先生），(5) ドゥイショノワ・ナリーザ先生「キルギス国立総合大学における日本語教育の歴史」，(6) 黒岩幸子先生「日本人からキルギスの先生方中心へ～キルギス日本人材開発センターで見た3年間～」，(7) オモロワ・ディナーラ先生「中央アジアアメリカ大学における日本語教育」，(8) 西條結人先生「キルギスにおける国際協力としての日本語教育の在り方を考える」の合計8本であった。これまでのキルギスの日本語教育の30年を振り返るとともに，諸先生方が，キルギスの教育機関での日本語学習や，キルギスの日本語教育に携わったことを契機として，その後にキルギス国内外で様々な分野で活躍されていることにより，キルギスでの日本・日本語の魅力の更なる広がりが感じられた。

また，午前と午後の発表の間には，キルギス国内の日本語教育機関を卒業･修了した学習者よりの日本語学習者としての経験，日本語の知識や技能を生かして現在行っている活動についてのビデオメッセージが上映された。ビデオメッセージから恩師への感謝やこれからの抱負等が述べられた学習者の言葉は日本語教師のひとりとして感動するものであり，当日参加した教師以外の学習者にとっても将来の進路を考えたり，日本語学習の成果を感じたりできる貴重な時間となったのではないだろうか。

大会の2日目には自由研究発表と実践報告があり，テーマは，日本語とキルギス語の対照研

究，社会言語学，オンライン授業の実践報告等，非常に多様であった。具体的な発表題目は次の通りである。(1) 上甲アリセ民江先生「日本語学習者と日本語母語話者の雑談におけるインターアクションとラポール構築」，(2) 平畑奈美先生「中央アジアでの日本語教育における母語話者と非母語話者の協働を考える：日本語教師養成の視点から」，(3) アクマタリエワ・ジャクシルク先生「日本語とキルギス語の「V1+V2」型複雑述語についての対照研究」，(4) ミズグリナ・マリア先生「ロシア語母語話者の聞き取りの特徴と聴解指導における問題点」，(5) クーン・ソチア先生，鬼一二三先生「コロナ禍中のカンボジアにおけるオンライン授業の実践報告」，(6) ボロトベック・クズ・サイカル先生「聴覚障害のあるキルギス人の手話言語使用状況と言語意識に関する予備的研究」，(7) ジョルブラコワ・マイラム先生「日本語とキルギス語の男性会話におけるフィラーの機能と役割」，(8) 森田誠亮先生，マギー・アリ・アブデル・ハディー先生「カイロ大学におけるビデオ教材を用いた反転授業の実践報告」の合計 8 本の興味深い研究発表と実践報告を拝聴した。いずれの発表もフロアの先生方の関心を集め，活発な質問とコメント，議論がなされた。

國學院大學の中川千恵子先生には「学習者の自律を目指した音声指導・学習」と題した基調講演を行っていただき，キルギスの教育現場での日本語音声学習や音声指導への多くの示唆をいただいた。

対面形式では大会の実施は実現できなかったが，キルギス国内外からの多くの参加をいただいたことや，2 日間にわたる 16 本の発表と報告，基調講演と充実した内容をプログラムとして編成できたことでにふさわしい研究大会とすることができたと思われる。

最後に，本大会にご出席をいただいた来賓の皆様，発表者の先生方，基調講演をお引き受けいただいた中川先生，ビデオメッセージを送ってくださった学習者の皆様に心から感謝を申し上げる。そして，キルギスの日本語教育開始 30 周年記念という責任ある冠を背負った大会の準備と実行のために尽力いただいた実行委員，準備にあたってご支援とご協力をくださった先生方，当日に司会を務めてくださった先生方にお礼と感謝を申し上げる。実行委員長として共に日本語教師会活動に取り組むことができたことは大きな喜びであるとともに，オンライン上での画面を通して，遠方にお住まいの先生方にもお会いできたことは何よりの喜びであった。

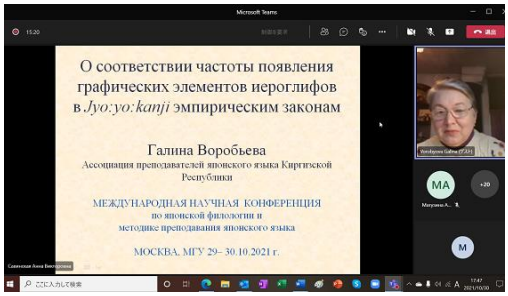
今後もキルギスにおける日本語教育が末永く続き，「日本・日本語が大好き」という学習者が増加することや，日本とキルギスの交流が促進され，両国関係がより一層発展していくことを期待している。

キルギス日本語教育研究，2022，vol.6，pp.47-50
アスランベック クズ グリザット，ヴォロビヨワ　ガリーナ，ジュヌシャリエワ　アセーリ
学会・研究大会報告

モスクワ国立総合大学が開催したオンライン方式研究大会について

ヴォロビヨワ　ガリーナ（元ビシケク国立大学）

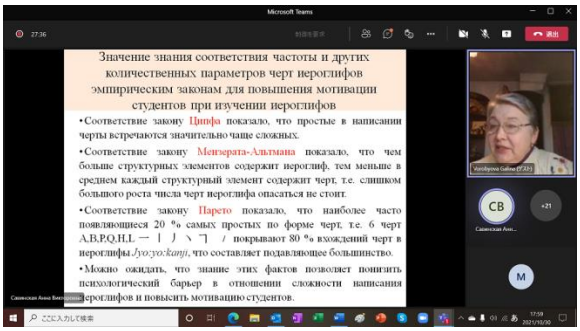
2021 年 10 月 29～30 日に M.V.ロモノーソフ・モスクワ国立総合大学付属アジア・アフリカ諸国大学とロシアおよび CIS 諸国日本語教師会と国際交流基金モスクワ事務所の共催で日本学・日本語教育学国際研究大会が Zoom と Microsoft Teams というコラボレーションプラットフォームで実行された。参加者は約 170 人だった。

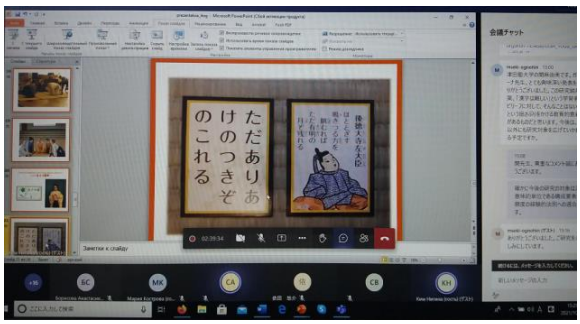


1 日目にはパネルセッションがあり，その後同時に 2 つの発表のセッションが行われた。2 日目には同時に 3 つの発表のセッションが行われた。発表時間は質疑応答を含めて 15 分だった。ロシアにおける日本語教育の歴史，日本語教育方法論，日本文化研究，日本語教育における文化的側面，教授表，教材作成などに関するテーマに 4 か国（ロシア，日本，ウズベキスタン，キルギス）の 56 人の研究者や日本語教師が発表した。発表は主にロシア語でされたが，日本語の発表もあった。

発表のテーマは様々だった。発表の中に以下のものがあった。ロシア科学アカデミーのアルパートフ・ヴォラディーミル教授の「日本文化研究のアプローチ」，モスクワ国立総合大学付属アジア・アフリカ諸国大学のネチャエワ・リュドミーラ教授の「私たちの先生方の日本語教育方法論的遺産」，モスクワ市立大学のサヴィンスカヤ・アンナ先生の「大学の日本語指導で慣用句使用の言語文化的な意義及び教訓的な意義」，神田外語大学の高橋亘先生の「やさしい読みものを楽しくたくさん読む日本語多読活動―近年の実践を例に―」，サンクトペテルブルグの学校のキム・ニギナ先生の「異文化間コミュニケーションのツールとしてのゲーム『歌かるた』」というテーマの発表だった。

キルギスからのヴォロビヨワ・ガリーナの発表のテーマは「常用漢字の画の使用頻度の経験的法則への適合性」で，Zipf の法則，Menzerath-Altmann の法則及び Pareto の法則への適合性を対象に話がされた。





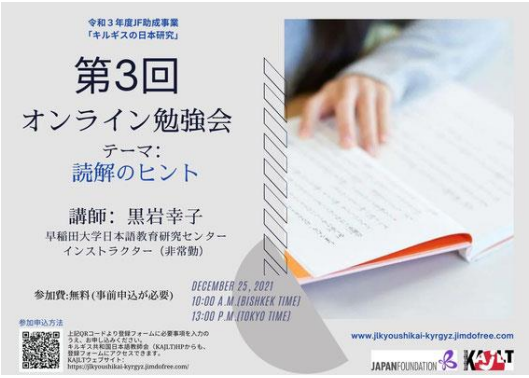
キルギス日本語教育研究，2022，vol.6，pp.47-50
アスランベック クズ グリザット，ヴォロビヨワ　ガリーナ，ジュヌシャリエワ　アセーリ
学会・研究大会報告

キルギスの日本研究

ジュヌシャリエワ　アセーリ
（ビシケク国立大学）

2021 年 3 月から 2021 年 12 月にキルギス共和国日本語教師会が主催する「オンライン勉強会」（以下，研究会）を実施した。本研究会は，国際交流基金助成事業『キルギスの日本研究』の一環として全 3 回構成で行った。各回の詳細については以下の通りである。

・第 1 回：2021 年 6 月 10 日
　森田誠亮先生（カイロ大学 客員講師）
　テーマ：「異文化衝突ケースを用いて，異文化理解能力を高めよう！」
・第 2 回：2021 年 10 月 10 日
　笈川幸司先生（中国湖南師範大学特任教授）
　テーマ：「「日本語」学習と研究の「夢」―日本政府・企業，日本人に，言いたいこと―」
・第 3 回：2021 年 12 月 25 日
　黒岩幸子先生（早稲田大学日本語教育研究センター インストラクター）
　テーマ：「読解のためのヒント」



研究会は新型コロナウィルス感染拡大防止のためオンラインの形で行い，キルギス，日本，ロシア，ウズベキスタンの日本語教師のほか，学生，大学院生など日本語学習者が参加した。

報告者は研究会実行委員として携わった。招聘講師の先生方は報告者の関心のある研究分野である異文化コミュニケーション論，読解，作文の書き方のヒントを専門とされており，研究会当日はもちろん，企画の段階から大変興味深く参加させていただいた。講師の先生方のお話は，具体的で分かりやすく，すぐに実践に取り入れたくなるような内容ばかりだった。

研究会に参加した参加者は皆，大きな刺激を受けたことと思う。一人でも二人でも今回取り上げた研究テーマに興味を持って，自身の研究を深めるきっかけとし，また研究会で得られた知識や技能を日頃の授業で実践してみたいという気持ちになってくれれば本研究会の実行委員として嬉しい限りである。

キルギス共和国日本語教師会 役員・委員会等

2021 年 9 月 1 日現在

◆役員等（任期：2021.09.01-2022.08.31）

会　長：アスランベック　クズ　グリザット（キルギス日本人材開発センター）

副会長：ジョルブラコワ　マイラム（バラサグン記念キルギス国立総合大学）

事務局：ヌスワリエワ　ジルディス（カラサーエフ記念ビシケク国立大学）

◆各種委員会

・広報委員会（会報発行）：

編集委員長：ウシケムピロワ　ナズグーリ

編集委員：　氏原　名美

・出版委員会（キルギス共和国日本語教師会研究紀要『キルギス日本語教育研究』編集部）：

編集委員長：ジュヌシャリエワ　アセーリ

編集委員：　ヴォロビヨワ　ガリーナ

・2022 年キルギス共和国日本語弁論大会実行委員会：：

ジョルブラコワ　マイラム（委員長），アスランベック　クズ　グリザット，

ウシケムピロワ　ナズグーリ，エルメコワ　アセーリ，タシタンベコワ　スィルガ

※詳細については教師会ホームページをご覧ください。

（http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com）

『キルギス日本語教育研究』投稿ガイド

キルギス共和国日本語教師会出版委員会（紀要編集委員会）

◆刊行の目的

キルギス共和国日本語教師会の会員等の研究成果・実践報告の発表に資する。

◆紀要名称

・日本語名：『キルギス日本語教育研究』

・ロシア語名：Научные исследования в области преподавния японского языка
в Кыргызской Республике

◆投稿内容・種類

・日本語教育学，日本学，授業実践・教育事情報告，通訳・翻訳，その関連分野のもので，未公刊のもの（ただし，学会等での口頭発表はこの限りではない）

・同じ内容の原稿を他誌に投稿している場合（二重投稿）は不採用とする。

・「研究論文（Научные статьи）」「教育事情・実践報告（Состояние преподавания- практические отчёты）」「研究ノート（Научные заметки）」の 3 部門を設ける。

≪参考：投稿原稿の種類≫

①「研究論文（Научные статьи）」：

日本語教育学，日本学，授業実践，通訳・翻訳，その関連分野に関わる研究の成果をまとめたもの。

②「研究ノート（Научные заметки）」：

日本語教育学，日本学，授業実践・教育事情，通訳・翻訳，それらの関連分野に関わる動向、歴史資料，もしくは独創的で意外性のある発想に基づいている芽生え期の研究・実践に関わるもの。

③「教育事情・実践報告（Состояние преподавания- практические отчёты）」：

キルギス国内外の教育事情や，授業実践，通訳・翻訳の実践等に関わるもの。

◆投稿資格：以下のいずれかに該当する者とする。

・キルギス共和国日本語教師会会員

・キルギス共和国日本語教師会会員との共同執筆者

・キルギスの大学に在籍する大学院生，学部卒業生，学部生

※学部卒業生，学部生については，指導教員またはそれに準ずる者との共著に限る

・キルギス共和国日本語教師会会員以外で，キルギス共和国日本語教師会が主催する日本語教育セミナーもしくは，キルギス日本学・日本語教育国際研究大会で口頭発表（実践報告・研究発表等）を行った者

・キルギス共和国日本語教師会会員によって構成される編集委員会が特に認めた者

◆編集・発行形態

・教師会内に紀要編集委員会を設け，キルギス共和国日本語教師会委員の中から 2 名以上の編集委員で構成する。編集委員会は，教師会内外から，紀要編集の補助を担当する者として協力委員を選出することができる。

・年 1 回刊行（PDF 形式および冊子体で発行する）

◆原稿の使用言語

原稿の使用言語は，日本語・ロシア語を原則とする。その他の言語については，編集委員会の判断による。ただし，引用・用例の言語は原則として制限しない。

◆投稿の方法

・投稿方法は，すべて E-mail での投稿とする。

提出先：紀要編集委員会 kyoushikaikyrgyz.ed@gmail.com

◆投稿できる原稿数等

・投稿できる原稿は，共同執筆を含め原則として 1 号につき 2 編以内とする。ただし，編集上の都合により 1 編に制限されることがある。

◆投稿締め切り

・締め切り日は次の通りとする。10 月 30 日 17 時（キルギス時間）必着

※日本との時差はマイナス 3 時間

・提出後の差し替えは一切認めない。

・締め切り日を過ぎて到着した原稿は，次号投稿分として受理する。

※掲載時期等の事情を考えたうえで，投稿を取り下げる場合は事務局まで連絡すること。

・投稿前に必ず執筆要領に沿っているかを確認すること。

（https://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com/紀要-キルギス日本語教育研究/投稿ガイド-執筆要領/）

◆採否の決定

投稿された原稿は，編集委員会による査読を行い，掲載の採否を決定する。

採否の結果及びその理由については，締め切り日から 2 か月以内に E メール（kyoushikaikyrgyz.ed@gmail.com）にて，投稿者に通知する。

◆査読結果の取扱い

編集委員会からの査読結果及びコメントその他の通知内容は，当該論文の執筆者に対する伝達を除き，非公開とする。

◆論文の公開

掲載された原稿は、本教師会ウェブサイト内の「教師会紀要 キルギス日本語教育研究」等で公開する。

◆著作権

『キルギス日本語教育研究』に投稿された論文の著作権は，キルギス共和国日本語教師会に帰属する。原稿の他の出版物への転載等は，キルギス共和国日本語教師会の許可を得たうえで行うこと。

（2019 年 8 月策定）
（2021 年 9 月一部改定）

『キルギス日本語教育研究』執筆要領

キルギス共和国日本語教師会紀要編集委員会

◆和文・ロシア語文論文共通事項

・用紙は，原則 A4 判縦置き，横書きとする。ただし，和文論文で表記上特に必要な場合は，A4 判横置き，縦書きとすることができる。

・原稿には，題名・著者名（和文及びロシア語文）・日本語及びロシア語の要約，3 語以上 5 語以内のキーワード（和文及びロシア語文）を記載する。

・本文は日本語もしくはロシア語とし，ロシア語要約（200 語程度）と日本語要約（250 字程度）の両方をつける。原則 20000 字以内（題名，筆者名，所属，図表，参考文献含む），図・表・写真は出典を明記して原稿に添付する。

・原稿第 1 ページ目に，著者の所属を和文もしくはロシア語文で書く。この場合，大学教員は大学名，大学の非常勤講師は主な勤務大学名，学部生・大学院生は学部・研究科名，学校教諭等は学校名等を書く。

【記載例】

・学生の場合

ビシケク人文大学大学院生（修士課程）

（Студент-магистрант Бишкекского гуманитарного университета им. К. Карасаева）

・教員の場合

キルギス国立総合大学（Киргизский национальный университет им. Ж. Баласагына）

◆論文の体裁

・和文論文

書体は，明朝体 11 ポイントを標準とする。

論文は，本文・要約ともにネイティブチェックを経ること。

本文は，書き出し及び改行後の書き出し部分を 1 コマ空ける。

文献は，論文末尾にアルファベット順に記載する。また，著者が複数の場合は，その全員を記載する。その際，著者名と著者名の間は「カンマ［,］」でつなぐ。

・ロシア語文論文

書体は，Times11 ポイントを標準とする。

論文は，本文・要約ともにネイティブチェックを経ること。文献は，論文末尾にアルファベット順に記載する。

また，著者が複数の場合は，その全員を記載する。その際，著者名と著者名の間は，カンマ［,］でつなぐ。

◆参考文献の書き方

※書式については，以下を参考にするものとするが，専門分野により既定の書式がある場合は，それに準ずるものとする。

・雑誌論文の場合

著者名（発行年）「論文表題」『掲載雑誌名』巻（号），該当ページ

・欧文雑誌の場合

著者名（発行年）論文表題，　掲載雑誌名，　巻（号），該当ページ

【記載例】

山田太郎（2016）「キルギスにおける日本語教育」『ビシケク人文大学東洋国際関係学部紀要』5，pp.38-39

Mederbekova，　J.（2016）Japanese Language Education. *Journal of Japanese Language*，　Vol.16，pp.58-59

・著書の場合

著者名（発行年）「論文標題」『書名』，　該当ページ，　出版社・発行所名

著者名（発行年）「論文表題」　編者名編『書名』，該当ページ，　出版社名

《欧文著書の場合》

著者名（発行年）論文表題．編者名（ed.），*書名*，　該当ページ，　出版社名

【記載例】

山田太郎（2016）『基礎キルギス語文法』，pp.22-23，　ビシケク書房

Mederbekova，　J.（2016）The current state and issues of Japanese language education in Kyrgyz Republic，　Usenbaeva，　C. & Sultanalieva，　A. (eds.)，　*Japanese Language*，　pp.34-35，　Bishkek Humanities University Press

◆図，表，写真図版等

図，表，写真図版等は，本文中の該当箇所の刷り上がりをイメージした位置に，鮮明に識別できる大きさで，以下の様式により挿入する。

図（写真図版を含む）は，図 1(Fig.1/ Рисунок 1)，図 2(Fig.2/Рисунок 2)，…，のように，表は，表 1(Table 1/Таблица 1)，表 2 (Table 2/Таблица 2)，…のように通し番号をつける。

図の番号及び見出しは，図の下に記入し，表の番号及び見出しは，表の上に記入する。

◆インターネット上の資料

資料題名，サイト名 URL（資料にアクセスした日）

（2016 年 9 月策定）

（2018 年 9 月一部改定）

（2021 年 9 月一部改定）

編集委員会より

研究紀要『キルギス日本語教育研究』第 6 号は、キルギス共和国日本語教師会が 2021 年 8 月 21 日と 22 日に開催した『キルギス共和国における日本語教育開始 30 周年記念国際研究大会』における基調講演，研究報告及び教育事情・実践報告を主な内容としています。

今後とも、キルギス共和国日本語教師会会員をはじめ、中央アジア諸国の日本語教育関係者、キルギス日本学・日本語教育国際研究大会の発表者の皆様方と協力し合って、研究紀要『キルギス日本語教育研究』の発行を続けてまいります。

各方面の方々より、ご意見ご提言をお寄せいただければ幸いに存じます。

2022 年 3 月

『キルギス日本語教育研究』編集委員会

編集委員

ジュヌシャリエワ　アセーリ，ヴォロビヨワ　ガリーナ

編集協力

氏原　名美，関　麻由美，西條　結人

Ассоциация преподавателей японского языка

Кыргызской Республики

Научные исследования в области преподавания японского языка в Кыргызской Республике

выпуск № 6

Редколлегия:
Асель Джунушалиева, Галина Воробьева

©Ассоциация преподавателей японского языка Кыргызской Республики

Редакционная коллегия Сборника научных трудов
Ассоциации преподавателей японского языка Кыргызской Республики
г. Бишкек, 720044, проспект Чингиза Айтматова, 27
Бишкекский государственный университет им. К. Карасаева
факультет востоковедения и международных отношений
кафедра японской филологии
e-mail: kajlt.jimukyoku@gmail.com
Веб-сайт: http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com
Facebook: https://www.facebook.com/JLteachers.association.KR
Вестник ассоциации: https://www.evernote.com/pub/tm0y/kyrgyz_vestnik

ToiArt Design Studio

Кыргызская Республика, г. Бишкек, ул. Боконбаева, 103

Научные исследования в области преподавания японского языка в Кыргызской Республике

выпуск № 6

◆ Содержание выступлений приглашенных докладчиков международной конференции, посвященной 30-летию преподавания японского языка в Кыргызской Республике

Об истории преподавания японского языка в Кыргызской Республике

Рысбек МОЛДОГАЗИЕВ · 4

К 30-летию преподавания японского языка в Кыргызской Республике

Хиронори ИТО · 8

30 лет преподавания японского языка в Кыргызской Республике: события и люди

Галина ВОРОБЬЕВА · 12

От преподавателей-японцев к местным преподавателям: из опыта преподавания японского языка в Кыргызско-Японском центре человеческого развития

Сатико КУРОИВА · 22

◆ Отчеты приглашенных лекторов международной конференции

О методах изучения и преподавания фонетики, направленных на повышение самостоятельности учащихся

Тиэко НАКАГАВА · 27

◆Научные заметки

Функции и роль заполнителей в мужской речи японцев и кыргызов

Майрам ЖОЛБУЛАКОВА · 40

Ассоциация преподавателей японского языка Кыргызской Республики
Бишкек, 2022